



---

# 事業報告書

---

令和 5(2023)年度



**学校法人医療創生大学**

# 目次

I 法人の概要	2
1. 法人の沿革	2
2. 設置する学校・学部・学科等（令和5年5月1日現在）	3
医療創生大学の教育理念・目的	4
医療創生大学方針	4
教育方針	6
3. 学部・学科等の入学定員及び在籍学生数の状況（令和5年5月1日現在）	8
4. 教育課程（授業科目及び単位数、必修・選択必修・選択の別、履修年次等）	9
5. 卒業認定基準及び取得可能な学位	9
6. 組織	11
7. 役員・評議員の概要（令和5年5月1日現在）	13
8. 教職員数（令和5年5月1日現在）	14
9. 学費（令和5年度納入金）	19
II 事業の概要	22
1. 基本方針	22
（1）第二次中期事業計画（2022（令和4）年度～2026（令和8）年度）	22
（2）第二次中期事業計画実施工程表	23
（3）令和5（2023）年度事業報告	24
III 財務の概要	42
（1）令和5年度決算について	42
（2）財務比率	45
（3）学校法人の会計について（学校法人会計の特徴と企業会計との違い）	48

# I 法人の概要

## 1. 法人の沿革

- 昭和 62 年 いわき明星大学開学 理工学部・人文学部開設
- 平成 4 年 大学院 理工学研究科・人文学研究科開設
- 平成 13 年 理工学部を改組
- 平成 17 年 科学技術学部開設（理工学部を改組）・人文学部を改組
- 平成 19 年 薬学部開設
- 平成 22 年 科学技術学部を改組
- 平成 27 年 教養学部開設（人文学部を改組）  
学校法人いわき明星大学 設立（学校法人 明星学苑より分離）
- 平成 28 年 いわき明星大学の運営を学校法人 いわき明星大学へ移管
- 平成 29 年 看護学部開設  
いわき明星大学創立 30 周年
- 平成 31 年 大学の名称を“医療創生大学”へ変更  
学校法人葵会学園と合併し、学校法人名称を“学校法人医療創生大学”へ変更  
健康医療科学部作業療法学科・理学療法学科開設  
留学生別科開設  
人文学部現代社会学科を廃止
- 令和 2 年 心理学部開設（教養学部を改組）  
生命理工学研究科開設（理工学研究科を改組）  
人文学部表現文化学科を廃止  
人文学研究科日本文学専攻（日本文学専攻（修士・博士）、英語英米文学専攻、社会学専攻）を廃止  
科学技術学部科学技術学科を廃止
- 令和 3 年 国際看護学部開設（柏キャンパス）  
理工学研究科物質理学専攻を廃止
- 令和 4 年 人文学部心理学科を廃止
- 令和 5 年 葵会柏看護専門学校を廃止  
教養学部地域教養学科を廃止  
理工学研究科物理工学専攻を廃止

## 2. 設置する学校・学部・学科等 (令和5年5月1日現在)

### (1) 医療創生大学

所在地：福島県いわき市中央台飯野 5-5-1

学 長：新谷 幸義

#### 【学 部】

学 部	学 科
薬 学 部	薬 学 科
看 護 学 部	看 護 学 科
健康医療科学部	作業療法学科
	理学療法学科
心 理 学 部	臨床心理学科
国際看護学部	看 護 学 科

#### 【大学院】

研 究 科	課 程	専 攻
理工学研究科	修士課程	物理工学専攻 (令和2年4月募集停止)
	博士課程	物質理工学専攻 (令和2年4月募集停止)
生命理工学研究科	修士課程	生命理工学専攻
	博士後期課程	生命理工学専攻
人文学研究科	修士課程	臨床心理学専攻

## 医療創生大学の教育理念・目的

「科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生」

## 医療創生大学方針

### 【求める教員像及び教員組織の編成に関する方針】

本学は、教育目標及び教育方針（3つのポリシー）を実現するため、次のとおり求める教員像及び教員組織の編成に関する方針を定める。

#### 求める教員像

1. 本学の教育方針を理解し、それを実現するための教育力を有する人材
2. 教育の質の向上に努め、積極的に教育に関わることができる人材
3. 学生支援に対し積極的に取り組み、学生の人間的成長を促すことができる人材
4. 研究成果を地域社会に還元し、社会の発展に寄与する能力を有する人材

#### 教員組織の編成方針

1. 大学設置基準及び大学院設置基準に基づいて、必要な教員を配置する。
2. 組織的な教育研究を行うため、教員間の連携体制を確保し、役割分担を適切に行う。
3. 教員の募集、任免及び昇格は、学内規則に基づき、公正かつ適切に行う。
4. 教員の年齢及び性別の適正な構成に配慮する。

#### 求める職員像

本学は、教育目標及び教育方針（3つのポリシー）を実現するため、次のとおり求める職員像を定める。

1. 本学の教育方針を理解し、それを実現するための教育支援力を有する人材
2. 教育の質の向上に努め、積極的に教育支援に関わることができる人材
3. 学生支援に対し積極的に取り組み、学生の人間的成長を促すことができる人材
4. 社会の発展に寄与する意欲を有する人材

### 【人材育成の目標・方針】

本学の教育研究活動及び教育研究等支援における資質向上・能力開発のために、以下のとおり人材育成の目標・方針を定める。

（教員）

「求める教員像」を達成するために、以下の研修等を通じて能力を高める。

1. 教育の質の向上に関する研修
2. 学生支援力の向上に関する研修
3. 研究に関する研修
4. 大学の管理運営に関する研修

（職員）

「求める職員像」を達成するために人事異動、研修等を通じて能力を高める。なお、共通に必要な能力やスキルの付与が必要な研修は集合研修とし、個別に獲得が必要な知識・スキルについては自ら学ぶことを基本とする。

## （人事異動方針）

1. 一人ひとりの個性や適性、事務組織の将来性を踏まえて人事異動を行う。

## （研修方針）

1. 教育支援力の向上に関する研修
2. 学生支援力の向上に関する研修
3. 大学の管理運営に関する研修

## 【学生支援に関する方針】

本学は、学生が学生生活を通して豊かな人間性を涵養し、自らの資質及び能力を十分に醸成するため、次のとおり学生支援に関する方針を定める。

### 修学支援

1. 学生が修学を円滑に進めていくことができるよう、教職協働による相談、指導に取り組む。
2. 留年者、休学者及び退学者の状況把握と分析を行い、多様な学生が充実した学生生活を送ることができるよう、各部局が連携して適切な対応を行う。

### 生活支援

1. 学生が目的意識と自覚を持ち、スポーツ、文化、ボランティア等の自主的な活動を積極的に行うことができるよう支援する。
2. 学生の健全な心身を維持増進するため、学生が快適、安全、安心な生活を送ることができるよう支援する。
3. 学生が経済的に安定した学生生活を送ることができるよう支援する。

### 就職支援

1. 学生の多様な進路に対応し、卒業後も見通した柔軟で的確なキャリアサポートに努める。

### 障がい学生支援

1. 障がいのある学生に対し、各部局が連携し、主体的自律的な学修ができるよう支援する。

## 【教育研究環境整備に関する方針】

本学は、学生の学修及び教員の教育・研究が十分に行えるよう、環境を適切に維持管理するため、次のとおり教育研究環境整備に関する方針を定める。

1. 学生の学修活動を支援するために必要な施設、設備及び環境を整備する。
2. 安心、安全な学生生活を送ることができるよう、施設、設備の計画的な整備、維持管理を行う。
3. 学生の学修及び教員の教育研究活動のため、図書館及び情報ネットワークなどの学術情報サービスを整備・運営する。
4. 教育・研究の支援のため、ICT等を活用した教育研究システム等を管理運用する。

## 【社会連携・社会貢献に関する方針】

本学は、社会に対し、本学がもつ人的・物的及び知的資源を還元するため、次のとおり社会連携・社会貢献に関する方針を定める。

1. 研究成果の社会への還元のため、公開講座などの生涯学習の場を広く提供する。
2. 研究成果及び知的財産を社会に広く還元するため、産官学間の組織的連携を強化する。

3. 東日本大震災以降の被災地支援活動等を中心とした社会への貢献を継続的に行う。

### 【管理運営に関する方針】

本学は、本学の機能を円滑かつ十分に発揮するため、次のとおり管理運営に関する方針を定める。

1. 教育研究の充実及び推進のため法令を遵守し、透明性、機能性を有した手続きのもと管理運営を行う。
2. 学長のリーダーシップのもと、意思決定プロセスを継続的に見直し、教学ガバナンス改革を推進する。
3. 社会への説明責任を果たすため、情報を積極的に公開する。
4. 教職員の意欲・資質の向上を図るため、適正な方策を実施する。
5. 教育研究を支える財務的基盤を安定させるために、中期事業計画の策定と見直しを適切に行い、効率的・効果的な予算編成及び執行を促進する。

### 【内部質保証に関する方針】

本学は、教育目標の実現に向けて組織的かつ定期的な自己点検・評価を行い、恒常的に大学改革、教育改善を推進する。機能的な自己点検・評価の実践のため、次のとおり内部質保証に関する方針を定める。

1. アセスメントポリシーに基づいて客観的で合理的なデータを収集し、学内の教育研究情報の適切な把握と分析を行い、成果を可視化することで恒常的な点検・評価活動を行う。
2. 自己点検・評価結果を積極的に公表して透明性を確保するとともに、社会への説明責任を果たす。
3. 第三者評価機関による認証評価を受けることにより、自己点検・評価の妥当性と客観性を担保する。
4. 内部質保証の実践が教職員の自律的、継続的な活動となるような施策を積極的に展開する。

## 教育方針

### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

医療創生大学（以下本学）は、教育理念・目的に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識・技能を身につけ、それらを活用して保健医療に関する基本的な問題を解決することができる。
2. 広い視野と思考力・判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。
3. 社会に貢献できる人材としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。
4. 多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。

### 【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

本学では、教育理念・目的を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

1. 幅広く多様な基礎的知識・技能を獲得するための全学共通カリキュラムとして、領域別に初年次教育科目、リテラシー教育科目、外国語教育科目、健康・スポーツ教育科目、一般教養科目の5つの科目群を設置する。
2. 各学部学科に専門教育科目として、専門的な知識・技能や方法論に関する科目を段階的・体系的に配置する。

3. 社会との連携のもと、課題解決型の授業を展開して、知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力等、社会生活で必要となる能力を総合的に身につける教育課程を編成する。
4. 生涯にわたって学び続け、自ら探究する意欲と主体性を持ち、多様な人々と協働しながら社会に貢献する態度・関心・コミュニケーション力を育むための教育課程を編成する。

### 【アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）】

本学は、教育理念・目的と以下の方針に基づいて入学者を受け入れます。

1. 大学で教育を受けるために必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている。
2. 大学で教育を受けるために必要とされる基本的な思考力・判断力・表現力等の能力を身につけている。
3. 大学で教育を受けるために必要な関心・意欲・態度を身につけている。

#### （2）千葉・柏リハビリテーション学院

所在地：千葉県柏市大井 2673 番地の 1

学院長：新谷 正子

#### 【課程】

課 程	学 科
医療専門課程	理学療法学科
	作業療法学科

#### （3）岡山・建部医療福祉専門学校

所在地：岡山県岡山市北区建部町福渡 408 番 20

学校長：小河 育恵

#### 【課程】

課 程	学 科
医療専門課程	看護学科

#### （4）葵会仙台看護専門学校

所在地：宮城県仙台市若林区伊在 2 丁目 14 番地 5

学校長：新谷 幸義

#### 【課程】

課 程	学 科
医療専門課程	看護学科

3. 学部・学科等の入学定員及び在籍学生数の状況 (令和5年5月1日現在)

【学部】 (人)

学部	学科	入学定員	収容定員	在籍者
薬学部	薬学科	60	480	312
看護学部	看護学科	80	320	253
健康医療科学部	作業療法学科	40	160	106
	理学療法学科	60	240	250
心理学部	臨床心理学科	60	240	160
国際看護学部	看護学科	80	240	245
学部計		380	1,680	1,326

【大学院】 (人)

研究科	課程	専攻	入学定員	収容定員	在籍者
理工学研究科	修士課程	物理工学専攻	—	—	1
	博士課程	物質理工学専攻	—	—	2
生命理工学研究科	修士課程	生命理工学専攻	5	10	3
	博士後期課程	生命理工学専攻	2	6	5
人文学研究科	修士課程	臨床心理学専攻	10	20	8
大学院計			17	36	19

【千葉・柏リハビリテーション学院】 (人)

課程	学科	入学定員	収容定員	在籍者
医療専門課程	理学療法学科	80	240	236
	作業療法学科	40	120	124

【岡山・建部医療福祉専門学校】 (人)

課程	学科	入学定員	収容定員	在籍者
医療専門課程	看護学科	—	80	23

【葵会仙台看護専門学校】 (人)

課程	学科	入学定員	収容定員	在籍者
医療専門課程	看護学科	120	360	328

#### 4. 教育課程（授業科目及び単位数、必修・選択必修・選択の別、履修年次等）

本学公式サイト参照（シラバス）

<https://www.isu.ac.jp/syllabus/>

本学公式サイト参照（カリキュラム）

薬学部

<https://www.isu.ac.jp/department/pharm/curriculum.html>

看護学部

<https://www.isu.ac.jp/department/nursing/model.html>

健康医療科学部

<https://www.isu.ac.jp/department/hs/curriculum.html>

心理学部

<https://www.isu.ac.jp/department/psychology/curriculum.html>

国際看護学部

<http://kn.isu.ac.jp/info/curriculum.html>

#### 5. 卒業認定基準及び取得可能な学位

##### 【学部】（卒業要件）

本学を卒業するためには、看護学部・健康医療科学部・心理学部・国際看護学部4年以上、薬学部は6年以上在学し、本学の教育課程に従って授業科目を系統的に履修し、所定科目について看護学部・健康医療科学部・心理学部・国際看護学部は124単位以上、薬学部は186単位以上を修得したとき、卒業が認められます。

##### ◀取得可能な学位▶

学部	学科	学位
薬学部	薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
健康医療科学部	作業療法学科	学士（作業療法学）
	理学療法学科	学士（理学療法学）
心理学部	臨床心理学科	学士（心理学）
国際看護学部	看護学科	学士（看護学）

##### 【大学院】（修了要件）

##### ◎修士課程

2年以上在学し、専攻の定める所要授業科目について30単位以上修得し、更に学位論文を提出し、そ

の審査及び最終試験に合格すること。

### ◎博士課程

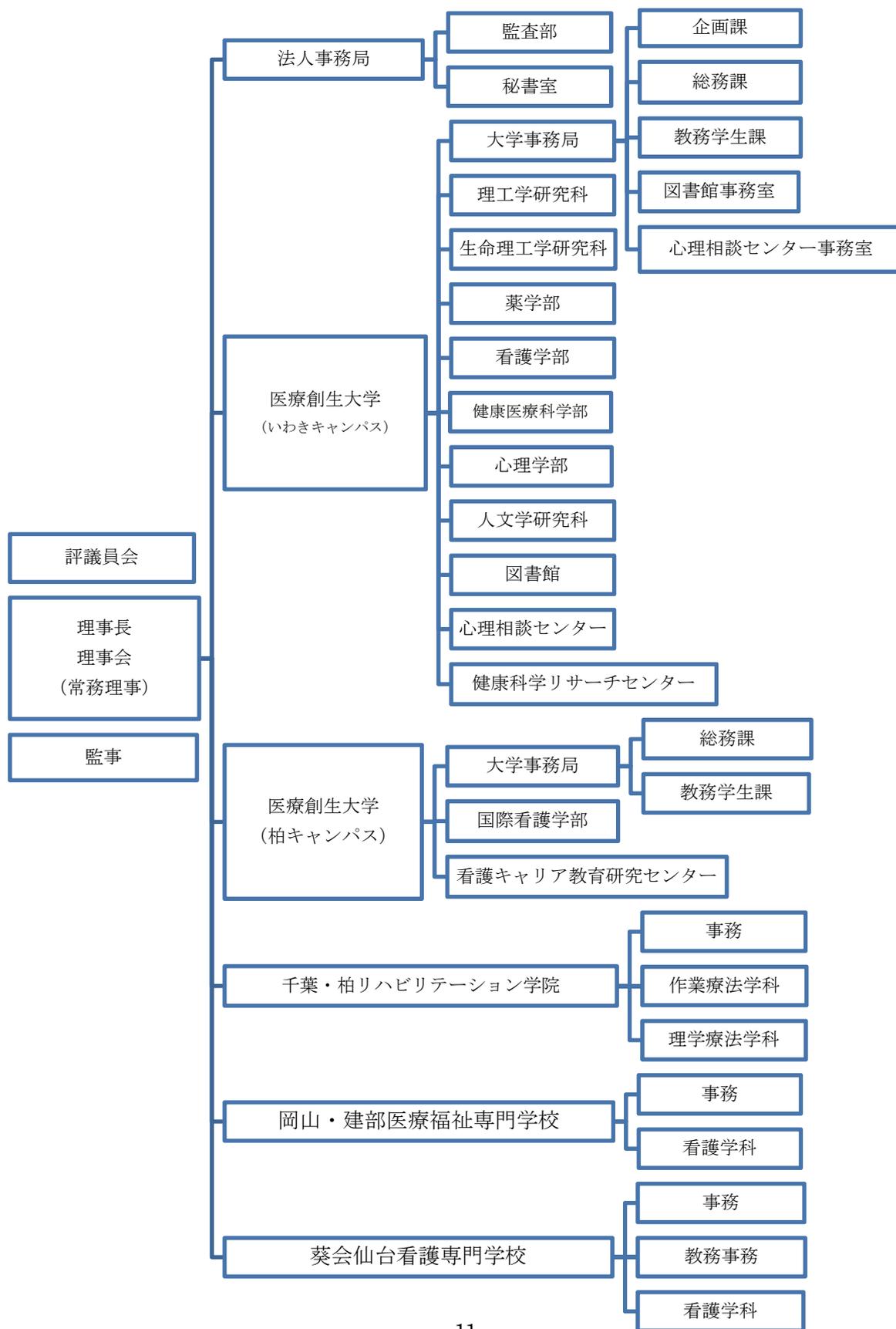
3年以上在学し、専攻の定める所要授業科目について、物質理工学専攻・生命理工学専攻では16単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

### ◀取得可能な学位▶

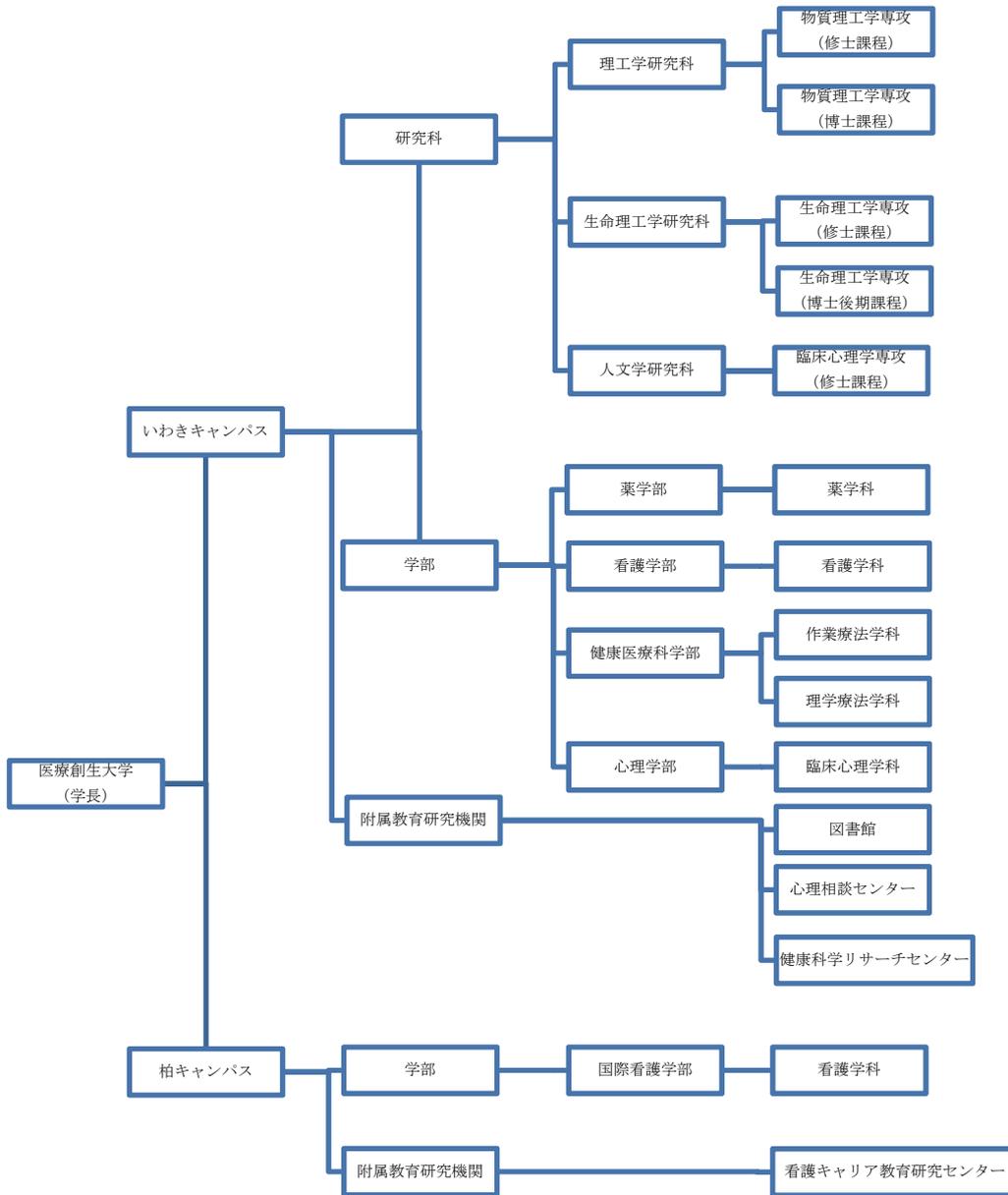
研究科	課程	専攻	学位
理工学研究科	修士課程	物理工学専攻	修士（物理工学）
	博士課程	物質理工学専攻	博士（理工学）
生命理工学研究科	修士課程	生命理工学専攻	修士（生命理工学）
	博士後期課程	生命理工学専攻	博士（生命理工学）
人文学研究科	修士課程	臨床心理学専攻	修士（臨床心理学）

## 6. 組織

【学校法人医療創生大学組織図】（令和5年5月1日現在）



【医療創生大学組織図】（令和5年5月1日現在）



## 7. 役員・評議員の概要 (令和5年5月1日現在)

【理事】理事定数5～8名以内、監事：2名以上3名以内

区分	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月
理事(理事長)	新谷 幸義	非常勤	平成29年11月就任
理事(常務理事)	新谷 正子	非常勤	平成31年1月就任
理事(常務理事)	田口 信教	常勤	令和3年4月就任
理事	池坊 保子	非常勤	平成27年8月就任
理事	山本 晴康	非常勤	平成31年4月就任
監事	鷺田 千秋	常勤	令和3年2月就任
監事	森 保彦	非常勤	令和2年4月就任

【評議員】評議員定数11～17名以内(法人の職員で理事会において推薦された者2名以上、法人の設置する学校を卒業した25歳以上の者2名以上、学識経験者7名以上)

区分	氏名	現職	就任年月
1号評議員	新谷 幸義	医療創生大学 学長 学校法人医療創生大学 理事長	平成29年11月就任
1号評議員	五十嵐 幸一	医療創生大学 副学長/看護学部教授	令和5年4月就任
2号評議員	猪狩 明宏	同窓会長	平成30年8月就任
2号評議員	政本 正志	同窓生 (医療法人社団葵会 八本松病院)	平成31年4月就任
3号評議員	新谷 正子	学校法人医療創生大学 理事 医療法人社団葵会 副理事長	平成31年1月就任
3号評議員	田口 信教	学校法人医療創生大学 理事	令和3年4月就任
3号評議員	池坊 保子	元文部科学副大臣 特定非営利活動法人萌木 理事長 学校法人医療創生大学 理事	平成27年8月就任
3号評議員	白井 康正	医療法人社団葵会 AOI八王子病院 名誉院長	平成30年3月就任
3号評議員	山本 晴康	千葉・柏リハビリテーション病院 院長 学校法人医療創生大学 理事	平成31年4月就任
3号評議員	大内 和子	元いわき明星大学 副学長	平成29年1月就任
3号評議員	川口 基一郎	元いわき明星大学 薬学部長	平成27年4月就任
3号評議員	川合 述史	千葉・柏リハビリテーション病院 精神神経センター長	平成31年4月就任

### ■2023(令和5)年度 理事会・評議員会 開催日および開催数

理事会	第1回	第2回	第3回	第4回
	5月25日	9月25日	12月20日	3月27日
評議員会	第1回	第2回	第3回	第4回
	5月25日	9月25日	12月20日	3月27日

8. 教職員数 (令和5年5月1日現在)

(1) 医療創生大学 (いわきキャンパス)

【教員】

(人)

学部等	教授			准教授			講師			助教			助手			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
薬学部	19	0	19	7	1	8	1	1	2	4	2	6	0	0	0	31	4	35
看護学部	4	4	8	2	6	8	2	2	4	4	4	8	1	3	4	13	19	32
健康医療科学部	6	1	7	5	1	6	2	1	3	6	1	7	2	0	2	21	4	25
心理学部	3	4	7	1	2	3	2	0	2	0	0	0	0	0	0	6	6	12
地域連携センター	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	3	0	3
合計	33	9	42	15	10	25	8	4	12	15	7	22	3	3	6	74	33	107
外国人内数	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	1	4

【教員年齢構成】

(人)

職位	66歳 ～ 72歳	61歳 ～ 65歳	56歳 ～ 60歳	51歳 ～ 55歳	46歳 ～ 50歳	41歳 ～ 45歳	36歳 ～ 40歳	31歳 ～ 35歳	26歳 ～ 30歳	25歳 以下	計
	教授	5 12%	18 43%	5 12%	11 26%	2 5%	0 0%	1 2%	0 0%	0 0%	
准教授	2 8%	1 4%	1 4%	5 19%	8 31%	5 19%	4 15%	0 0%	0 0%	0 0%	26 100%
講師	1 9%	1 9%	1 9%	0 0%	1 9%	2 18%	4 37%	1 9%	0 0%	0 0%	11 100%
助教	0 0%	0 0%	1 5%	1 5%	3 14%	3 14%	8 35%	4 18%	2 9%	0 0%	22 100%
助手	0 0%	0 0%	0 0%	1 16%	0 0%	1 16%	1 16%	1 16%	2 36%	0 0%	6 100%
合計	8 7%	20 19%	8 7%	18 17%	14 13%	11 10%	18 17%	6 6%	4 4%	0 0%	107 100%

【教員の保有学位・業績等】(令和5年5月1日現在)

本学公式サイト参照 <https://www.isu.ac.jp/ed/staff/>

## 【学外からの兼任教員数】

(人)

	男	女	計
非常勤講師等	26	12	38
外国人内数	0	1	1

## 【職員】

(人)

	男	女	計
法人職員	1	0	1
事務職員	14	7	19
パート職員	1	1	2
合計	16	8	24

## (2) 医療創生大学 (柏キャンパス)

## 【教員】

(人)

学部等	教授			准教授			講師			助教			助手			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
国際看護学部	4	10	14	2	4	6	0	2	2	0	4	4	0	0	0	6	20	26
合計	4	10	14	2	4	6	0	2	2	0	4	4	0	0	0	6	20	26
外国人内数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 【教員年齢構成】

(人)

職位	66歳 ～ 72歳	61歳 ～ 65歳	56歳 ～ 60歳	51歳 ～ 55歳	46歳 ～ 50歳	41歳 ～ 45歳	36歳 ～ 40歳	31歳 ～ 35歳	26歳 ～ 30歳	25歳 以下	計
	教授	6 43%	2 14%	2 14%	3 22%	0 0%	1 7%	0 0%	0 0%	0 0%	
准教授	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 17%	2 33%	2 33%	1 17%	0 0%	0 0%	6 100%
講師	0 0%	0 0%	1 50%	0 0%	1 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
助教	0 0%	0 0%	0 0%	1 25%	2 50%	0 0%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
助手	0 0%	0 0%	0 0%								
合計	6 23%	2 7%	3 12%	4 15%	4 15%	3 12%	3 12%	1 4%	0 0%	0 0%	26 100%

## 【教員の保有学位・業績等】(令和5年5月1日現在)

本学公式サイト参照 <https://kn.isu.ac.jp/info/teachers/>

## 【学外からの兼任教員数】

(人)

	男	女	計
非常勤講師等	11	9	20
外国人内数	0	0	0

## 【職員】

(人)

	男	女	計
法人職員	0	0	0
事務職員	4	3	7
パート職員	1	7	8
合計	5	10	15

## (2) 専門学校

## 【教員】

(人)

学校学科	学校長・ 学院長			副学校長・ 副学院長			教務主任・ 学科長			専任教員			実習指導 教員			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
千葉・柏リハ	0	1	1	0	0	0	2	0	2	11	2	13	0	0	0	13	3	16
理学療法学科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	8	0	8	0	0	0	9	0	9
作業療法学科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	2	5	0	0	0	4	2	6
看護学科(岡山)	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	8	9	0	1	1	1	11	12
看護学科(仙台)	1	0	1	0	1	1	0	2	2	2	17	19	0	0	0	3	20	23
合 計	1	2	3	0	1	1	2	3	5	14	27	41	0	1	1	17	34	51
外国人内数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
休職者内数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 【教員年齢構成】

(人)

職 位	66歳 ～ 歳	61歳 ～ 65歳	56歳 ～ 60歳	51歳 ～ 55歳	46歳 ～ 50歳	41歳 ～ 45歳	36歳 ～ 40歳	31歳 ～ 35歳	26歳 ～ 30歳	25歳 以下	計
学校長・学院長	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
副学校長・ 副学院長	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
教務主任・ 学科長	0	1	2	0	0	2	0	0	0	0	5
	0%	20%	40%	0%	0%	40%	0%	0%	0%	0%	100%
専任教員	1	5	6	4	6	5	3	9	2	0	41
	2%	12%	15%	10%	15%	12%	7%	22%	5%	0%	100%
実習指導教員	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
合 計	4	7	8	4	6	8	3	9	2	0	51
	7%	14%	16%	7%	12%	16%	6%	18%	4%	0%	100%

## 【学外からの兼任教員数】

(人)

	学校名	男	女	計
非常勤講師等	千葉・柏リハビリティーション学院	20	7	27
	岡山・建部医療福祉専門学校	2	1	3
	葵会仙台看護専門学校	38	19	57
外国人内数		0	0	0

## 【職員】

(人)

	学校名	男	女	計
	法人職員	0	0	0
事務職員	千葉・柏リハビリテーション学院	5	5	10
	岡山・建部医療福祉専門学校	3	2	5
	葵会仙台看護専門学校	5	3	8
パート職員	千葉・柏リハビリテーション学院	0	6	6
	岡山・建部医療福祉専門学校	6	0	6
	葵会仙台看護専門学校	0	4	4
合計		19	20	39

9. 学費 (令和5年度納入金)

【薬学部】

(単位：円)

薬学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		400,000	400,000	0	0	0	0
授 業 料		1,300,000	650,000	650,000	1,300,000	650,000	650,000
施設拡充費		500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000
小 計		2,200,000	1,300,000	900,000	1,800,000	900,000	900,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		2,217,000	1,317,000	900,000	1,816,000	916,000	900,000

【看護学部】

(単位：円)

看護学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		300,000	300,000	0	0	0	0
授 業 料		1,100,000	550,000	550,000	1,100,000	550,000	550,000
施設拡充費		400,000	200,000	200,000	400,000	200,000	200,000
小 計		1,800,000	1,050,000	750,000	1,500,000	750,000	750,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		1,817,000	1,067,000	750,000	1,516,000	766,000	750,000

【健康医療科学部】

(単位：円)

健康医療科学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		300,000	300,000	0	0	0	0
授 業 料		1,200,000	600,000	600,000	1,200,000	600,000	600,000
施設拡充費		450,000	225,000	225,000	450,000	225,000	225,000
小 計		1,950,000	1,125,000	825,000	1,650,000	825,000	825,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		1,967,000	1,142,000	825,000	1,666,000	841,000	825,000

## 【心理学部】

(単位：円)

心理学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		200,000	200,000	0	0	0	0
授 業 料		750,000	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000
施設拡充費		200,000	100,000	100,000	200,000	100,000	100,000
小 計		1,150,000	675,000	475,000	950,000	475,000	475,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
	父母会費	10,000	10,000	0	10,000	10,000	0
合 計		1,167,000	692,000	475,000	966,000	491,000	475,000

※看護学部・健康医療科学部・心理学部は4年生、薬学部は6年生に同窓会費として20,000円を別途納入。

※薬学部は5年生に実施される実務実習費用(400,000円)を5年生進級時に別途納入。

## 【国際看護学部】

(単位：円)

看護学部		1年次			2年次以降		
		年 額	入 学 時	後 期	年 額	前 期	後 期
入 学 金		300,000	300,000	0	0	0	0
授 業 料		1,100,000	550,000	550,000	1,100,000	550,000	550,000
施設拡充費		400,000	200,000	200,000	400,000	200,000	200,000
小 計		1,800,000	1,050,000	750,000	1,500,000	750,000	750,000
上記の他	学友会費	7,000	7,000	0	6,000	6,000	0
合 計		1,807,000	1,057,000	750,000	1,506,000	756,000	750,000

## 【千葉・柏リハビリテーション学院】

(単位：円)

項目	1年次	2年次以降
入学金	200,000	—
授業料	800,000	800,000
施設設備費	320,000	320,000
実験実習費	60,000	400,000
合計	1,380,000	1,520,000

## 【岡山・建部医療福祉専門学校】

(単位：円)

項目	1年次	2年次以降
入学検定料	30,000	—
入学金	200,000	—
授業料	420,000	570,000
施設設備費	50,000	130,000
実験実習費	20,000	100,000
合計	720,000	800,000

## 【葵会仙台看護専門学校】

(単位：円)

項目	1年次	2年次以降
入学検定料	30,000	—
入学金	300,000	—
授業料	700,000	700,000
施設設備費	200,000	200,000
実験実習費	200,000	200,000
合計	1,430,000	1,100,000

## II 事業の概要

### 1. 基本方針

#### (1) 第2次中期事業計画（2022（令和4）年度～2026（令和8）年度）

学校法人医療創生大学（以下「法人」という。）は、2015（平成27）年8月31日に学校法人いわき明星大学として発足し、2019（平成31）年4月に学校法人医療創生大学へ名称を変更し、学校法人葵会学園との合併や学部の設置等を経て、組織の規模を拡大してきた。

第1次中期事業計画（2017（平成29）年度～2021（令和3）年度）では、大学は「1. 新たな大学のあり方の検討」「2. 収支改善策の検討・実施」「3. 教育改革の実施」「4. 学生満足度の向上」「5. 地域連携の推進」、専門学校は、平成31年以降、「1. 学生の確保施策の実施」「2. 国家試験合格率の向上」に取り組み、一定の成果を挙げてきた。

第1次中期事業計画の結果を踏まえ、第2次中期事業計画は、法人は「I 経営の安定」「II 管理運営の強化」、大学は「I 教育の質保証」「II 満足度向上」「III 社会的評価の向上」に取り組むことで18歳人口が減少する厳しい環境の中でも永続的に存続するための基盤を整備することとしている。

#### (2) 2023（令和5）年度事業計画

2023（令和5）年度は、2021（令和3）年11月の第4回理事会にて承認された第2次中期事業計画2022（令和4）年度～2026（令和6）年度（5カ年）に基づき、計画を実施する。

#### ①法人

- (1) 経営の安定（大学と専門学校の経営安定と円滑な専門学校廃止手続き）
- (2) 管理運営の強化（組織経営基盤とガバナンスの強化）

#### ②医療創生大学（柏キャンパス）

- (1) 教育の質保証（教育課程と学習成果）
- (2) 人事計画（教員組織・教員人事計画）
- (3) 学生満足度向上（学生支援・就職支援）
- (4) 入学定員の確保（学生の受け入れ）
- (5) 教育研究環境・施設等整備計画
- (6) 社会貢献・研究活動

#### ③医療創生大学（いわきキャンパス）

- (1) 教育改革と質保証（教育課程と学習成果）
- (2) 人事計画（教員組織・教員人事計画）
- (3) 学生満足度向上（学生支援・就職支援）
- (4) 入学定員の確保（学生の受け入れ）

- (5) 教育研究環境・施設等整備計画
- (6) 社会貢献・研究活動
- (7) 中期事業計画運営体制

#### ④専門学校

- (1) 学生の確保施策の実施
- (2) 国家試験合格率の向上

### (3) 第2次中期事業計画実施工程表

※別紙をご参照ください。

## (4) 令和5(2023)年度事業報告

本法人は、2019(平成31)年4月1日より、学校法人医療創生大学として、医療創生大学、千葉・柏リハビリテーション学院、岡山・建部医療福祉専門学校、葵会仙台看護専門学校、葵会柏看護専門学校を設置校として運営してきた。その後、葵会柏看護専門学校については、国際看護学部の開設に伴い2023(令和5)年3月に閉校とし、また、岡山・建部医療福祉専門学校については、学生募集の回復が見込めず、2024(令和6)年3月に閉校とした。学生募集の困難が続く状況ではあるが、2024(令和6)年4月に医療創生大学歯科衛生専門学校を新たに開設し、経営の安定化を図る計画である。

2023(令和5)年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、各種の制限が解除され、授業、課外活動、研究活動、新入生の募集活動など、多くの活動がコロナ禍以前のような直接接触を主とした各施策を実施した年度であった。特に募集活動においては、受験生や保護者等と直接接触できる機会を可能な限り増加し展開してきたが、安定的な学生確保にはいたっておらず、早急な経営改善策の施行が急務である。

### ①法人

#### (1) 経営の安定(大学と専門学校の経営安定と円滑な専門学校廃止手続き)

##### 【取組項目】財務状況

##### 【実施目標】

中期財務工程表をもとに評価し、5年後までに収支均衡させる。

##### 【実施計画】

- ・前年度の支出を分析し、当年度の支出の抑制を図る
- ・資金繰り表を作成し、支出を管理する

##### 【令和5年度までの進捗状況】(取組内容/数値目標を踏まえて)

教育活動収支差額比率(教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計)、▲15.3%であり数値目標(▲10%)は未達成である。

また、自己点検により経常収支に焦点を充てることは、今後の就学支援補助金要件を満たす為にも必要である。

##### 【今後の計画】

今後は就学支援補助金の要件達成の為、下記の項目について改善を図りたい。

- ・「経常収支差額」：5年後にプラスにする。
- ・「運用資産－外部負債」：運用資産は外部負債を超えないこととする。

#### (2) 管理運営の強化(組織経営基盤とガバナンスの強化)

##### 【取組項目】管理・運営

##### 【実施目標】

主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤と、時代の変化に対応する大学づくりを進める。

### 【実施計画】

- ・ガバナンスコードの遵守状況を可視化し、運営の適切化を進める。

### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

令和5年度においては、未達成（一部未達成）の下記の3項目の改善を目標としてきた。

#### ①理事会の議決事項の明確化の改善

業務執行者からの理事会への報告が法人部長、又は大学事務局長からである。専門学校の内容については、各専門学校の事務長からの報告が必要である。

#### ②理事及び大学運営責任者の業務執行の監督の改善

理事会は、理事及び設置大学の運営責任者（学長、副学長及び学部長等）に対する実効性の高い監督を行うために、理事会においても自己点検評価を報告することを検討する。

#### ③海外の協定校及び海外派遣学生数の改善

海外の協定校については数値を公表しているが、海外派遣学生数が公表できていない（新型コロナウイルス感染症の影響により派遣している学生がいなかった。派遣学生がいなかった場合は該当者0名として公表する）。

このうち、①理事会の議決事項の明確化の改善については、各設置校の案件は当該事務長から報告、説明がなされるよう改善を行った。しかし、入学者数の報告等、一部の報告事項については、効率化の観点から大学事務局長が取りまとめた行った。

②理事及び大学運営責任者の業務執行の監督の改善については、私学法の改正に伴う対応も見据え、継続して計画している。

③海外の協定校及び海外派遣学生数の改善については、ホームページで公表しており、達成済みである。

ガバナンスコードの277項目のうち、チェック対象項目は263項目であり、そのうち達成できている項目（○）は249項目（94.7%）、一部未達成（△）の項目は10項目（3.8%）、未達成（×）の項目は4項目（1.5%）である。当初の数値目標の55点（%）に対して、94.7%の達成率である。

### 【今後の計画】

引き続き、未達成（一部未達成）の項目の改善に取り組むことは当然であるが、私学法の改正に伴い、ガバナンスコード自体の見直し、点検も行う必要がある。

## ②医療創生大学（柏キャンパス）

### （１）教育の質保証（教育課程と学習成果）

#### 【取組項目】教育課程と学修成果

#### 【実施目標】

- ・国家試験合格に向けた学力の担保
- ・教育の質を保証する体制（サイクル）の確立
- ・学生の国際交流に向けた交流拠点の開拓

#### 【実施計画】

- ・年間の各単位において、国家試験対策定期目標指数「成績基準・試験、（模試）成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」などを検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指す。
- ・学生の学習到達度の検証や学生の学修成果の結果を受けて、教育支援のための研修会や情報交換会を継続的に実施する。

#### 【令和５年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

- ・国家試験対策として、1・2年生は模擬試験を1回実施し受験率は100%であった。3年生は2回実施した。受験率は一回目は90%、二回目は89%であった。全国に比較して正答率の低い問題42問については学部教員による解説講義を急遽実施、学習が一人で出来ない学生のためにバーチャル自習室を設置、業者のオンライン講習会を案内するなどの対策を講じた。
- ・留年率は1.6%であり、休学者数3名（2年生3名）であった。理由は、体調不良1名、修学意欲低下2名である。心身両面の不調を抱える学生もみられるが、少し時間がかかっても看護職を目指したいと希望する学生もみられるため、保護者とも連携し休学中に学習継続の気持ちが途切れることのないような支援が必要である。
- ・オフィスアワーの時間帯だけでなく、学生が相談にきたタイミングで学習支援を行う環境を整えてきた。保護者との連携をとりながら春と秋の定期チューター面談を実施し、学生アンケートの実施・学生へのフィードバックなどの状況を把握し、要注意要指導学生に対する学生支援を行った。
- ・2023年度には、国際交流拠点として、開智国際大学留学生センターとの交流を開始した。本学コアメンバーの学生たちが、開智国際大学留学生代表者とのオンライン対面を繰り返し行い、留学生代表者3名、本学部学生代表者2名が異文化についてのプレゼンなどの交流を深めた。

#### 【今後の計画】

2023年度の結果を踏まえ、学習支援体制を強化していく。同時に低学力層に対してはチューター制度の強化を図るとともに、留年や離籍にかかわる学生に対しては、保護者との連携を密にしながら支援体制を強化・構築していく。

## (2) 人事計画（教員組織・教員人事計画）

### 【取組項目】教員組織・教員人事計画

#### 【実施目標】

- ・欠員が生じた場合には設置申請に従い、申請計画通りの教員の確保を行っていく。

#### 【実施計画】

- ・実施目標に沿って予定人事を実施する。

### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

2022年度までに着任予定の教員1名の死去によって当該領域の教員1名の補充を行った。その後、2名の退職者があったが、該当領域の教員人事を行い、2023年度に赴任を完了している。2024年度においては、教授13名、准教授6名、講師4名、助教6名の合計29名の教員組織体制で教育を進める予定にあり、当初計画通りの教員組織構成となっている。

#### 【今後の計画】

今後は、設置申請の計画通りの教員補充を行っていくと同時に、臨地実習の場との連携を深めていくために、臨地実習指導教員の制度を確立していく。

## (3) 学生満足度向上（学生支援・就職支援）

### 【取組項目】学生支援計画

#### 【実施目標】

- ・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度70%を達成する

#### 【実施計画】

- ・教職協働、学部横断による学生満足度調査の実施
- ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表
- ・学生の心理面への調査検討、および実施
- ・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善・教育指導

### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

全学で実施した2023年度の学生満足度調査において、学生満足度は80%を超えることができた。今後、FD研修やSD研修などを実施しながら大学職員の意識を高めていくと同時に、授業参観制度などの実施を通して、より良い授業評価につながるよう検討を進めていく。

## 【今後の計画】

学生へのアンケート結果では、2022 年度において国際看護学部での要望が高かった内容に関して、実現可能性も含めて今後検討していく予定である。また柏キャンパスでの愛好会活動に関する規約の作成についていわきキャンパスと相談し、柏支部として明記された規約の作成を行った。2023 年度より学生の運営委員会が発足し、運用が始まっている。夏には学園祭などの計画を進めている。

## （4）入学定員の確保（学生の受け入れ）

### 【取組項目】学生の受け入れ

#### 【実施目標】

入学定員充足率を 100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、18 歳人口が減少していくことから、県外からの入学者数を増やす。

#### 【実施計画】

- ・ 広報用媒体の充実（WEB 版のオープンキャンパス等）
- ・ 対面広報（オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス）

### 【令和 5 年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

- ・ オープンキャンパスを年度内に 9 回実施し、高校訪問なども積極的に実施し、受験者数は確保できた。今後も本学部の魅力をより一層の広報活動を実施していく計画である。ホームページや SNS を効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を進める必要がある。
- ・ 2 月の入試を終えた時点で合格者は 93 名であった。入学時点で 69 名(充足率：86%)となり辞退者が多くみられた。今後、より多くの受験生が受験機会を得られるように入試日程などを検討していく。とくに社会人の確保が課題である。
- ・ 2023 年度入学者は 83 名であった。定員充足率 100%を超える結果となった。
- ・ 大学説明会には 4 月～6 月、43 件の依頼中 35 件に参加した。7 月～9 月は 17 件の依頼に 14 件参加した。高校訪問は千葉県、関東圏内を中心に実施した。
- ・ 柏キャンパスの学部ホームページの全面的リニューアルに着手した。

## 【今後の計画】

今後はさらに積極的な入試広報活動によって本学部の魅力を伝えることができるよう、魅力的なオープンキャンパスを企画する。柏キャンパスのホームページの充実に向け、今後はホームページ情報は受験生の増加と関連が高くなることから、時期に合わせた最新情報の掲載に向けて取り組むと同時に、いわきキャンパスとのより一層の連携強化を図る。

## (5) 教育研究環境・施設等整備計画

### 【取組項目】教育研究環境・設備等整備計画

#### 【実施目標】

- ・ICT 技術を活用した授業を実施するための環境を提供する。
- ・施設修繕計画に則り教育に支障のない適切な整備を進める

#### 【実施計画】

- ・無線 LAN 等のネットワーク
- ・学外接続ネットワーク環境の充実
- ・施設・設備の維持管理

#### 【令和 5 年度までの進捗状況】(取組内容/数値目標を踏まえて)

- ・年間を通して学内ネットワーク (Wi-Fi) に不調なく、トラブルはなかった。授業時の利用においても速度遅延などのトラブルは報告されていない。対面授業・オンライン授業 (録画) を組み合わせたハイブリッド授業についても学内ネットワーク (Wi-Fi) で対応できていた。
- ・満足度調査のアンケート結果では満足～やや満足 70%に達している。
- ・学修支援システム (C-learning) や Teams も最大限の活用を続けており、学内授業だけでなく学生・教員・職員間の連絡ツールとしても機能させる。
- ・学内に設置された PC、プリンター等にトラブルなく、ICT システムは 100%稼働している。

#### 【今後の計画】

今後も引き続き、満足度アンケートで不満の理由に関連する自由記述として挙げられた、移動中の通信が不安定になることや食堂などの通信環境が芳しくない点が見られたため、講義以外での通信状況についても調査・把握し、通信環境が不調となる状況について、調整を図って満足度を高めてより快適なネットワーク環境を維持できるよう努める。

## (6) 社会貢献・研究活動

### 【取組項目】社会貢献

#### 【実施目標】

医療施設 (看護職)・地域 (看護) 活動に資す教育訓練の実施・支援を通じて、医療創生大学 (国際看護学部) の社会的プレゼンス向上を図る

#### 【実施計画】

- ・広報・外部連携体制の整備 (HP、相談窓口など)
- ・医療機関 (看護職) の教育・研究にかかる情報利用支援

- ・大学・地域行政機関・医療施設における研修会の企画および実施
- ・外部医療機関での看護職員教育の支援（特定行為研修、新任職員研修など）

#### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

看護キャリア教育研究センターのホームページを通じて、外部機関への看護職員の研修に向けた広報活動を実施すると共に、柏キャンパスの国際看護学部の臨地実習場所の施設等を中心に、本学キャリア教育研究センターの事業を広報し、その活用に向けた働きかけを行った。

- ・千葉県の実業である「看護職員卒業後フォローアップ研修事業」を実施した。参加者は20名で、研修のテーマは「食への思いを支える摂食嚥下の看護ケア」とし、柏たなか病院とAOI国際病院との連携の下で、5日間のスケジュールで研修を実施した。3月8日（金）に研修統括の発表会を行った。
- ・看護職員教育の一環として特定行為研修（医療安全の演習）に講師派遣を行った。
- ・令和6年度に向けて、柏市地域子育て支援拠点「はぐはぐひろば柏たなか」と、子育て支援事業の共同参画に関する活動計画を企画している。

#### 【今後の計画】

地域の社会貢献として大学独自の企画、その他行政や病院などと共同企画による講演会や研修会を企画実施する。また、看護キャリア教育研究センターと連携して、今後も行政による助成研修事業などへ積極的に参加実施する。

### （7）財務状況

#### 【取組項目】財務状況

##### 【実施目標】

中期財務工程表をもとに評価し、5年後までに収支均衡させる。

##### 【実施計画】

- ・前年度の支出を分析し、当年度の支出の抑制を図る。
- ・補助金の増収を目指し、要件の検証を行う。

#### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

- ・開設して3年目で完成年度までは収入・支出ともに大きく増加して行くこととなるが、今年度は改組した専門学校が昨年度閉校となり専門学校から通信費、委託費や借入等の固定的な支出を引き継ぐこととなる。そのため、完成年度に満たない今年度は前期同様、引き続き、特に支出の抑制を図る必要がある。
- ・電気ガス料金の高騰による光熱水費支出の増加、学生増による紙類など消耗品費の増加、領域別実習要項等の学生配布資料増加による印刷製本費支出の増加、学生確保のための広報費の増加が目立っている。

るため、継続して、節電・消耗品の管理徹底・広報戦略効率を図り、また、食堂直営運営経費の削減を業者依頼との経費分岐点を精査する必要がある。

#### 【今後の計画】

完成年度となり、補助金対象の学校会計原則に基づき、学生生徒納付金および経常費補助金の収入管理の確定、厳格な予算書作成し、支出を制御することを目的とした学校法人会計処理を明確に表示していく。

前年度同様に継続して、節電・消耗品の管理徹底・広報戦略効率を図り支出の管理を徹底していく。

### （８）研究活動

#### 【取組項目】研究活動

#### 【実施目標】

- ・ 外部研究費の獲得
- ・ 競争的資金の採択
- ・ 国際関連の大型資金の確保

#### 【実施計画】

- ・ 申請説明会等を実施する
- ・ 組織的に申請書チェックを行う
- ・ 研究業績を年度更新しガルーンへ保管する

#### 【令和５年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

- ・ 外部資金獲得は、科学研究費（代表）11件が採択されており新規採択3件、継続中のものは5件であった。助成金等の採択は2件（学術学会1件、企業助成1件）であった。
- ・ 研究業績書の提出は100%であった。
- ・ 2023年度における新規採択率は38%であった。

#### 【今後の計画】

今後は、外部資金を未申請の教員が複数人いるので全員の応募を促す。教員評価に対しての、研究の重みづけは現状では15%である。しかし大型資金獲得者にはインセンティブを与えるような仕組みづくりが今後は必要である。

### ③医療創生大学（いわきキャンパス）

#### （１）教育改革と質保証（教育課程と学習成果）

##### 【取組項目】教育課程と学修成果

##### 【実施目標】

- ・大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う。
- ・質保証サイクルを実質化する

##### 【実施計画】

- ・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、（模試）成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していくこととする。
- ・達成度評価の基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める。

##### 【令和５年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

成績基準・試験、（模試）成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること、及び学生が学修成果を可視化できるような学修教育成果アセスメントシステム（SIGEL）を検討し導入した。

また、FD・SDは、京都橘大学 西野毅朗准教授（日本高等教育開発協会 副会長）に依頼し「学修成果の把握と可視化～ルーブリック作成と活用方法」に関する内容を実施し、教職員に成績評価の目的・意義、ルーブリック評価表の作成・活用に関する知識の醸成を図った。

また、本学では学修成果には学修時間を伴うことが前提であることを踏まえ、学修行動調査を実施している。令和５年度は令和４年度の結果を踏まえ、各学科で学修時間が多くなるよう改善策を実施したが、結果は、「授業時間以外の学修時間 11 時間以上/週」の割合はいわきキャンパスで 15.28%であった。学科別にみると薬学科は 31.22%（昨年度 34.83%）、看護学科は 10.43%（昨年度 8.5%）、作業療法学科は 5.63%（昨年度 9.09%）、理学療法学科は 7.65%（昨年度 8.33%）、臨床心理学科は 13.57%（昨年度 17.82%）であり、一部を除き昨年度よりも学修時間が減少している学科が多い状況であった。

##### 【今後の計画】

令和５（2023）年度に導入した学修教育成果アセスメントシステム（SIGEL）を活用し学生が学修成果を可視化できるようにするため、大学が設定している観点別（知識・技能、思考力・判断力、関心・意欲・態度等）に学修成果が可視化できるように設定する準備を行い、令和６年度後期にはテスト運用ができるように実施していく計画である。

また、学修時間が減少している状況を踏まえ、引き続き各学科において学修時間を確保し、学力が向上する施策を検討し実施していく計画である。

## (2) 人事計画（教員組織・教員人事計画）

### 【取組項目】 教員組織・教員人事計画

#### 【実施目標】

- ・策定した人事計画を着実に実施し、教員組織の適切性を継続的に確保する。

#### 【実施計画】

- ・経営状況を勘案しつつ適切な教員の補充を行い、各種法令や社会状況に応じて適宜修正を行う。
- ・各学科の人事選考委員会は、教員人事計画に基づき年度始めより教員選考を進め、安定した教員組織を構築していく。
- ・若手の新任教員を教員の育成を支援する。

#### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

2021（令和3）年4月に作成した各学科の専門領域における教員配置表に基づき、経営状況を勘案しつつ定年退職者の専門領域も俯瞰し適切な教員を採用し補充した。また、法人運営調査で健康医療科学部作業療法学科の大学設置基準上必要となる教授数を充足するよう指導を受けたことに対応した。

#### 【今後の計画】

各学部の人事選考委員会は、教員人事計画に基づき年度始めより教員選考を進め、適正数で安定した教員組織を構築していく。

## (3) 学生満足度向上（学生支援・就職支援）

### 【取組項目】 学生支援計画

#### 【実施目標】

- ・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する

#### 【実施計画】

- ・教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し
- ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表
- ・学生の心理面への調査検討、および実施
- ・各調査結果に基づく支援の検討、環境改善
- ・教育指導
- ・大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施

#### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

令和5年度いわきキャンパスの学生生活満足度調査の回答率は68.1%（733人/1,077人）（昨年度

67.3%)であった。

学生生活満足度調査の設問数は35項目のうち33項目を4段階評価(満足、やや満足、やや不満、不満)、2項目を5段階評価(4段階評価に「どちらともいえない」を追加)で実施している。そのうち、学生生活全体に対する満足度(満足、やや満足)を「学生満足度」の数値指標としている。

令和5年度の学生満足度は、全体で75.1%(昨年度71.3%)と昨年度を上回った。学科別にみると薬学科は77.2%(昨年度72.7%)、看護学科77.3%(昨年度69.0%)、作業療法学科63.4%(昨年度68.2%)、理学療法学科73.5%(昨年度72.3%)、臨床心理学科は77.2%(昨年度73.2%)であった。

令和5年度は昨年度の結果を踏まえ、各学部の改善点と改善に向けた取組の報告を行い改善を図った。

また、保護者の満足度を向上させるために父母会と連携し、父母会総会で寄せられたアンケート結果に対して順次対応し満足度の向上を図った。

### 【今後の計画】

各学部に共通してみられるのが、学修環境の整備・改善と学生間または教職員と学生との関係向上という点であった。

令和6年度において、本調査で得られた結果を踏まえた改善策を実施し改善を図る計画である。

## (4) 入学定員の確保(学生の受け入れ)

### 【取組項目】学生の受け入れ

#### 【実施目標】

入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していくことから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。

#### 【実施計画】

- ・遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)
- ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)

#### 【令和5年度までの進捗状況】(取組内容/数値目標を踏まえて)

##### ・遠隔広報の実績

WEB オープンキャンパス(動画配信) 当日の視聴 34回(2024年4月22現在 1,437回)

HPに「創生力」の特設サイトを掲載

DM(はがき) 発送 4月, 5月, 7月, 8月(2回), 9月, 12月, 3月 合計 約41,000件

##### ・対面広報の実績

会場型ガイダンス 延べ 81会場、565名の接触 (前年度 延べ 59会場、284名の接触)

学校型ガイダンス 延べ 139校、1,333名の接触 (前年度 延べ 110校、接触者数は記録なし)

大学見学の受け入れ 10校 586名（前年度 8校 362名）

出前講座の派遣 39件（前年度 28件）

オープンキャンパス 4/29, 5/27・28, 6/24 (WEB), 7/29・30, 8/26・27, 9/16, 10/7・8, 3/23

参加者数 延べ 637名、内3年生 308名 (WEB、3月を除く)

数値目標に対する実績は以下のとおりであった。

入学定員充足率 52.6%、志願倍率 1.11倍、合格率 95.2% (合格/志願)、歩留率 49.7% (入学/合格)、  
県外入学者数 60名

対面広報、遠隔広報ともに回数、接触人数を増加したものの、数値目標には達しなかった。早急な改善が急務である。

### 【今後の計画】

厳しさを増す外的要因、認知度・志望度の低さなどの内的要因を分析し、早急な改善を図るため、入試・広報担当部局を中心に、教職協働を強化し対策を講じていく必要がある。

## （5）教育研究環境・施設等整備計画

### 【取組項目】教育研究環境・施設等整備計画

#### 【実施目標】

- ・遠隔講義やICT技術を活用した授業を実施するための環境を提供する。
- ・施設修繕計画を則り、教育に支障のない適切な整備を進める

#### 【実施計画】

- ・無線LAN、建屋間ネットワークおよび学外接続ネットワークの改善を行う
- ・施設・設備の更新及び修繕を行う

#### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

無線LANについては、9月に学内ネットワーク全体での利用満足度の調査を行っている。調査項目のうち、学内ネットワーク全体での無線LAN利用満足度は満足が前年の35.4%から40.7%満足へ増加し、不満は43.9%から38.4%へと減少しており、前年度1月に行った増強工事の結果が反映されたものになっている。

ICTシステム利用率については、相手側音響によるハウリングの回避を実現した教室の音響映像設備の整備を見送ったことから調査を行っていない。対応として、既設機器によっては大学所有の機器との組み合わせでも同様の回避が可能であることを2号館の教室において実際に実施できることを確認した。このため、機器の配置設定後に調査をすることとした。

## 【今後の計画】

年度末に追加で実施した無線LANの満足度調査、および追加整備を実施する。  
教室整備については、障害の退避策を実施後、アンケートを行う。

## （6）社会貢献・研究活動

### 【取組項目】社会貢献

#### 【実施目標】

地域への知識の提供を目的とし、公開講座や生涯学習を開催することで認知度を向上させる。

#### 【実施計画】

- ・公開講座を毎年開催する
- ・各学部の生涯学習活動を実施する
- ・対外活動の管理を行う

#### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

- ・公開講座を毎年開催する

2023年度の医療創生大学公開講座を下記のとおり実施した。担当は、心理学部臨床心理学科で、延べ7名の参加があり、参加者の満足度は100%であり、目標の80%を大きく上回る結果であった（※アンケート結果により算出）。

テーマ：「思い出」にまつわる心理学

〔第1回〕令和5年11月25日（土） 「『なつかしき』と回想の心理学」

〔第2回〕令和5年12月2日（土） 「思い出を支える記憶にまつわる話」

- ・各学部の生涯学習活動を実施する

2023年度のいわきヒューマンカレッジにて、健康医療科学部理学療法学科が担当となり、作業療法学科と協力して「健康増進学部」を開講。9月から11月にかけて、計7回実施。93名の受講（出席率は平均で8割程度）があり、受講者の満足度（満足・やや満足）は約76%であった（※いわきヒューマンカレッジによるアンケート結果より算出）。

心理学部臨床心理学科において、年2回の無料講演会を実施した。対面とオンラインのハイブリッド型で実施し、市内の中高校生や保護者、教育関係者などの参加があった。参加者数の内訳は下記のとおり。

〔第1回〕令和5（2023）年9月9日（土）

「いわき市の高校生はどこを居場所と考えているのか？」

：会場来場者4名、オンライン参加（アーカイブ視聴含む）30名

〔第2回〕令和5（2023）年11月11日（土）

「「私は私。僕は僕。」を支える自己肯定感のはなし」

：会場来場者8名、オンライン参加（アーカイブ視聴含む）15名

薬学部薬学科において、いわき七夕まつりにて「薬学系実験体験イベント」を実施した。来場者数は合計 367 名で、市内だけではなく、県外からも多くの来場者があった。イベントの実施内容、来場者の内訳は下記のとおり。

〔開催日と来場者数〕 1 日目：令和 5 年 8 月 6 日（日） 137 名  
2 日目：令和 5 年 8 月 7 日（月） 130 名  
3 日目：令和 5 年 8 月 8 日（火） 100 名                      合計 367 名

〔実施内容〕 1. 軟膏の混合調剤体験：好きな香りで練り香水をつくろう  
2. 科学実験体験：インクと水で七夕の夜空にねがいごと花火を打ち上げよう

・ 対外活動の管理を行う

2023 年度の各学部学科の対外活動（生涯学習公開講座実施数：公開講座、市民講座、出前講座）は、合計 72 件であった。目標件数 17 件を大幅に上回る件数であった。これ以外にも、各種研究会や研修会、科学の祭典などの学外のイベント等にも多数参加した。

各学科の内訳は下記の通り。

〔薬学部薬学科〕 市民講座：3 件、出前講座：11 件

〔看護学部看護学科〕 市民講座：0 件、出前講座：13 件

〔健康医療科学部作業療法学科〕 市民講座：4 件、出前講座：4 件

〔健康医療科学部理学療法学科〕 市民講座：10 件、出前講座：2 件

〔心理学部臨床心理学科〕 公開講座（担当学科）：1 件、市民講座：6 件、出前講座：18 件

## 【今後の計画】

令和 6 年度以降は、企画課において下記の活動を継続する。

・ 公開講座を毎年開催する

2024 年度は、薬学部薬学科が担当学科となり実施する予定である。

・ 各学部の生涯学習活動を実施する

2024 年度はいわきヒューマンカレッジは、健康医療科学部作業療法学科が担当学科となり実施する予定である。

・ 対外活動の管理を行う

2024 年度も引き続き、積極的な対外活動を実施し、地域への知識の提供を通し、本学の認知度向上に努めていく。

## （7）財務状況

### 【取組項目】財務状況

#### 【実施目標】

・ 中期財務工程表をもとに評価し、5 年後までに収支均衡させる。

### 【実施計画】

- ・前年度の支出を分析し、当年度の支出の抑制を図る。
- ・補助金の増収を目指し、要件の検証を行う。

### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

光熱水費を含め節約実施を継続し支出抑制は図られている。また、教員人件費および職員人件費も見込内で推移しており、概ね順調に進んでいる。

### 【今後の計画】

5月1日現在の学生数による収入を再積算し、それに見合った支出の再積算をおこなう。具体的には、学生数に見合う教育研究費支出および管理経費支出について光熱水費や紙類など消耗品費のさらなる節約実施を行う。教員の役員資格手当も見直す。

## （8）中期事業計画運営体制

中期事業計画の運営体制は、学長が委員長を担う「全学教育委員会」を責任主体とし、「自己評価委員会」を実施主体とする本学の内部質保証体制において進捗及び達成状況を確認していくこととしている。

学部、事務局、委員会等の各部局の担当する事業について、各部局長が半期ごとに進捗状況を把握、確認し、「自己評価委員会」へ報告し、「自己評価委員会」が確認、検証を行ったうえで、「全学教育委員会」へ報告している。

「全学教育委員会」は、報告された進捗・達成状況を確認し、改善事項等を整理・総括し、次年度に向け各部局へ改善を指示する、という年間のサイクルを基本的な運営体制として実施した。

## （9）研究活動

### 【取組項目】研究活動

### 【実施目標】

- ・外部研究費の獲得
- ・競争的資金の採択

### 【実施計画】

- ・申請説明会等を実施する。
- ・組織的に申請書チェックを行う。
- ・研究業績を年度更新しガルーンへ保管する。

### 【令和5年度までの進捗状況】（取組内容／数値目標を踏まえて）

- ・外部資金獲得は、5件の採択があった。

- ・ 研究業績書（教員研究費報告書）の提出は100%であった。
- ・ 科学研究費補助金（代表）は4件の新規採択であり、科研費採択率は10.8%であった。

### 【今後の計画】

科研費を含む外部資金を未申請の教員が数多くいるので未獲得者へ研究費公募案内を Garoon で周知し申請を促す。また、採択件数を増加させるため、申請書の書き方説明会を開催し、科研費申請アドバイザーによる個別相談会と申請者の個別レクチャーを実施する。

## ④専門学校

### 千葉・柏リハビリテーション学院

#### (1) 学生の確保施策の実施

感染症の影響も減少し、進路説明会やオープンキャンパスの開催も以前と同様に可能となった。本校では、少人数制開催を履行し開催回数を増加させた。

その結果、理学療法学科並びに作業療法学科で定員を超える応募者があり、定員の確保が可能となった(令和6年3月1日現在)。年度末に辞退者があり、1名の欠員となった。

次年度については、欠員を見越した合格者を確保できるように実施したい。

募集活動としては、引き続き高等学校との関係構築、教員によるオープンキャンパス、在校生並びに家族からの口コミなどを中心に、本校の入学希望者を増やしていきたい。

#### (2) 国家試験合格率の向上

今年度も、理学療法学科作業療法学科共に全員受験を実践してきた。

自宅学習の環境が整わない学生や学力低下者を対象として、日曜祝日や夜間の学校開放を実施したり、グループごとに担当教員の個別指導を付けて国家試験対策を実施してきた。

結果としては、理学療法学科が89.6%、作業療法学科が82%であった。

次年度は、学習体制・教員配置等の見直しを改めて行い、合格者を一人でも多く出し、卒業後の就職につなげて行きたい。

### 岡山・建部医療福祉専門学校

#### (1) 学生の確保施策の実施

今年度、令和6年3月31日をもって閉校(廃止)。

#### (2) 国家試験合格率の向上

令和5年度の国家試験結果は、卒業生18名が受験し15名合格(合格率83.3%)、また既卒者6名が受験し1名合格となった。

### 葵会仙台看護専門学校

#### (1) 学生の確保施策の実施

学生募集に関しては、令和6年度の入学者は120名定員を22名下回り98名の入学者であった。今年度(令和5年度)入学者数より若干増加したものの定員割れとなった。次年度は入学試験の内容やオープンキャンパスの内容の見直しを行い、入学定員の確保に努める。

## (2) 国家試験合格率の向上

令和5年度国家試験は、卒業生109名が受験し、106名合格(合格率97.2%)という結果となった。国家試験の合格率が教育の成果と捉えられることから、高い合格率を継続できる施策を実施する。また、不合格者に関しても卒業後の教育支援を充実させる。

### III 財務の概要

#### (1) 令和5年度決算について

2019（平成31）年4月に1大学4専門学校を有する学校法人医療創生大学として教育事業を開始して5年目である。同時に心理学部は完成年度であり、2021（令和3）年4月に千葉県柏市の葵会柏看護専門学校（現在は廃止）敷地内に開設した医療創生大学国際看護学部は3年目を迎えた。岡山・建部医療福祉専門学校は、2024（令和6）年3月31日付けで閉校（廃止）となった。また、2024年4月に医療創生大学国際看護学部敷地内に開設を予定している歯科衛生士専門学校の開設準備の年度であった。

#### 資金収支計算書

学校法人は、毎会計年度に当該会計年度の諸活動に対応するすべての（収益事業会計以外）収入・支出の内容、支払資金の収入・支出の顛末を明らかにしている。

当年度の収入においては、学生生徒等納付金収入（3,024百万円）、補助金収入（353百万円）、岡山・建部医療福祉専門学校の廃止に伴う資産売却収入（1,069百万円）を計上している。

当年度の支出においては、経常外経費として、2024年4月開設の歯科衛生士専門学校による施設関係支出等に951百万円を支出している。仙台看護専門学校において、教職員用パソコン更新（7百万円）、自動空調電力削減システム（3百万円）、防犯カメラ（3百万円）を支出している。

歯科衛生士専門学校の建設費用は法人で支出されており、岡山・建部医療福祉専門学校の資産売却収入で賄っている。2021年度開設した国際看護学部は3年目で未完成であるものの、医療創生大学いわきキャンパス及び全ての専門学校の資金収支差額はプラスであり学校法人全体でも資金収支差額はプラスとなっている。2018年2月より進めている人件費削減策および管理経費削減策と光熱水費の節約も効果が表れている。

（単位：百万円）

科目	2023予算	2023決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,175	3,024	151
手数料収入	43	35	8
寄付金収入	8	11	▲3
補助金収入	350	353	▲3
資産売却収入	0	1,069	▲1,069
付随事業・収益事業収入	60	62	▲2
雑収入	27	103	▲76
借入金等収入	0	0	0
前受金収入・その他の収入	1,106	862	244
資金収入調整勘定	▲923	▲974	51
前年度繰越支払資金	2,934	1,498	1,436
収入の部合計	6,780	6,043	737
人件費支出	1,915	1,963	▲48
教員人件費	1,541	1,550	▲9
職員人件費	352	353	▲1
役員報酬支出	18	15	3
退職金支出	4	45	▲41
教育研究費支出	1,233	949	284
管理経費支出	461	427	34
借入金利息・返済支出	118	117	1
施設関係支出	920	881	39
設備関係支出	31	95	▲64
資産運用支出・その他の支出	269	259	10
資金支出調整勘定	▲41	▲833	792
翌年度繰越支払資金	1,824	2,185	▲361
予備費	50	-	-
支出の部合計	6,780	6,043	737
資金収支差額	▲1,110	687	▲1,797

## 事業活動収支計算書

学校法人は、毎会計年度の3つの活動（教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動）に対応する事業活動収入・事業活動支出の内容を明らかにし、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために作成している。なお、資金収支計算書にはみられない非資金取引科目がある。

経常費等補助金収入の内訳としては、大学 223 百万円、専門学校 110 百万円となっている。減価償却費の内訳としては、大学 473 百万円、専門学校 153 百万円となっている。

(単位: 百万円)

科目	2023 予算	2023 決算	差異
学生生徒等納付金	3,175	3,024	151
手数料	43	35	8
寄付金	9	11	▲ 2
経常費等補助金	333	333	0
付随事業収入	60	62	▲ 2
雑収入	27	57	▲ 30
収入計	3,647	3,522	125
人件費	1,952	1,985	▲ 33
教員人件費	1,541	1,550	▲ 9
職員人件費	351	353	▲ 2
役員報酬	18	15	3
退職金・退職給与引当金繰入	42	67	▲ 25
教育研究費	1,809	1,505	304
減価償却費	577	555	22
管理経費	534	494	40
減価償却費	73	71	2
支出計	4,296	3,984	312
教育活動収支差額	▲ 649	▲ 461	▲ 188
教育活動外収支差額	▲ 19	26	▲ 45
経常収支差額	▲ 669	▲ 435	▲ 234
特別収支差額	18	109	▲ 91
予備費	50	-	-
基本金組入前当年度収支差額	▲ 701	▲ 327	▲ 374
基本金組入額合計	0	▲ 478	478
当年度収支差額	▲ 701	▲ 805	104
事業活動収入計	3,665	3,714	▲ 49
事業活動支出計	4,365	4,040	325

## 貸借対照表

財政状態を明らかにするために作成されるもので、資産の部、負債の部及び純資産の部からなり、資産、負債及び純資産の科目ごとに当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して記載している。

資産の部の総額は、令和4（2022）年度末に対し53百万円の増加となり、17,942百万円となった。固定資産が619百万円減少して15,649百万円となり、流動資産が672百万円増加して2,293百万円となった。固定資産の減少理由は、令和5年度の減価償却によるものである。

負債の部においては、392百万円の増加となり3,912百万円となった。増加理由は、歯科衛生専門学校開設の未払金の増加等である。

基本金においては、第1号基本金にて27,177百万円の組み入れとなった。また、第4号基本金は、大学および専門学校の令和4年度決算数値をもとに算出し組み入れを行った。

（単位：百万円）

科目		2023年度末	2022年度末	増減
資産の部	固定資産	15,649	16,268	▲ 619
	有形固定資産	15,083	15,724	▲ 641
	特定資産	545	522	23
	その他の固定資産	21	22	▲ 1
	流動資産	2,293	1,621	672
	資産の部合計	17,942	17,889	53
負債の部	固定負債	2,130	2,233	▲ 103
	流動負債	1,782	1,287	495
	負債の部合計	3,912	3,520	392
純資産の部	基本金	27,500	28,493	▲ 993
	1号基本金	27,177	28,170	▲ 993
	4号基本金	323	323	0
	繰越収支差額	▲ 13,470	▲ 14,123	653
	純資産の部合計	14,030	14,369	▲ 339
	負債及び純資産の部合計	17,942	17,889	53

## (2) 財務比率

### ●法人全体の状況

法人全体の事業活動収支計算書をもとに、財務比率を算出した。

令和5(2023)年度は、平成31(2019)年4月に学校法人いわき明星大学と学校法人葵会学園が合併し、1大学4専門学校を有する学校法人医療創生大学として教育研究活動を開始して5年目である。また、令和3(2021)年4月、大学に国際看護学部が開設し3年目、岡山・建部医療福祉専門学校は令和6(2024)年3月31日付けで閉校(廃止)となった。また、令和5(2023)年度は、医療創生大学国際看護学部敷地内に開設を予定している歯科衛生専門学校の開設準備の年度であった。

これまでの法人の活動は、平成31(2019)年度は学校法人いわき明星大学と学校法人葵会学園との法人合併、多額の寄付金収入により経常収入が増加した。令和5(2023)年度は、年度末に岡山・建部医療福祉専門学校の土地及び建物を売却し1,069百万円の資産売却収入があった。

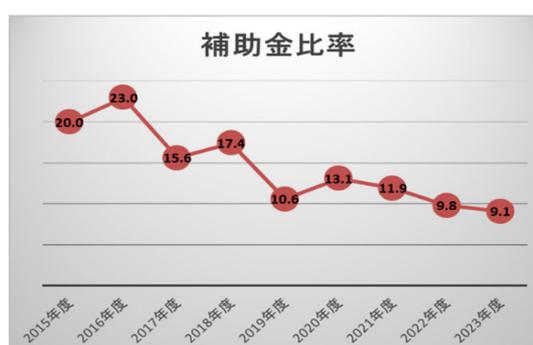
この数年にわたる大学の収容定員充足率は80%を維持していたが昨年度より80%を若干下回っており、高等教育の修学支援新制度の要件からもできるだけ早く収容定員充足率80%を超える対策が必要である。経常費補助金比率は若干低下しているが、学校法人運営をより安定化するための補助金獲得という観点から、先進的な大学教育研究活動を推進させる施策や国際化に向けた体制等を構築しさらに補助金収入増加を目指すこととなる。

		R05決算	R04決算	R03決算	R02決算	法人合併 H31決算	H30決算
		2023	2022	2021	2020	2019	2018
収入 構成	学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/経常収入)%	84.8%	84.5%	83.4%	83.5%	73.4%	75.8%
	補助金比率 (教育活動収入補助金/経常収入)%	9.3%	10.2%	11.0%	11.1%	6.4%	17.0%
	寄付金比率 (教育活動収入寄付金/経常収入)%	0.3%	0.5%	0.3%	0.3%	15.2%	1.0%
支出 構成	人件費比率 (人件費/経常収入)%	55.6%	54.8%	53.5%	53.9%	47.4%	77.2%
	人件費比率(退職金関係除く) (人件費/経常収入)%	53.8%	53.9%	52.0%	51.9%	45.4%	67.1%
	教育研究費比率 (教育研究費/経常収入)%	42.2%	43.4%	41.1%	45.5%	42.0%	55.7%
	教育研究費比率(減価償却額除く) (教育研究費/経常収入)%	26.6%	28.2%	24.7%	29.9%	27.6%	35.3%
	管理経費比率 (管理経費/経常収入)%	13.9%	13.7%	13.0%	15.0%	13.4%	15.1%
	管理経費比率(減価償却額除く) (管理経費/経常収入)%	42.2%	11.7%	11.1%	13.1%	11.6%	12.2%
	減価償却額比率 (減価償却額/経常支出)%	15.7%	15.2%	16.9%	15.2%	15.6%	15.7%
経営 状況	教育活動収支差額比率 (教育活動収支差額/教育活動収入)%	-12.4%	-12.8%	-8.4%	-14.8%	-3.1%	-48.0%
	経常収支差額比率 (経常収支差額/経常収入)%	-12.2%	-12.4%	-8.0%	-14.7%	-3.6%	-47.9%
	事業活動収支差額比率 (基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入)%	-8.8%	-12.0%	-18.3%	-18.7%	-3.1%	-48.4%

## ●大学の状況

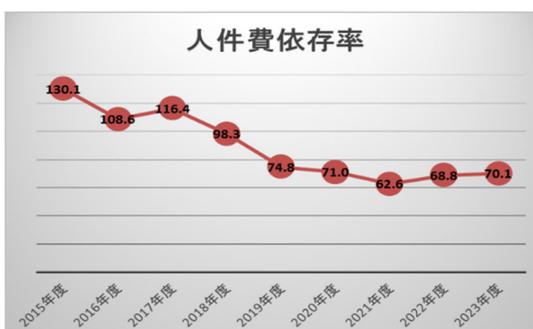
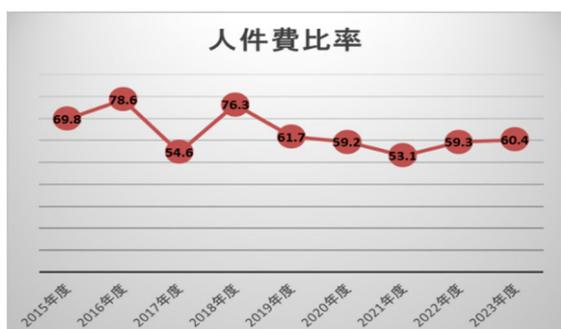
当該年度より第二次中期事業計画（2022（令和4）年度～2026（令和8）年度）がスタートしており、2022年度より国際看護学部（開設3年目）を含めており、大学の状況を経年でみていくと下記のグラフのとおりとなる。よって、単純に2021年度と比較できない状況となっている。

### ① 主な収入の推移



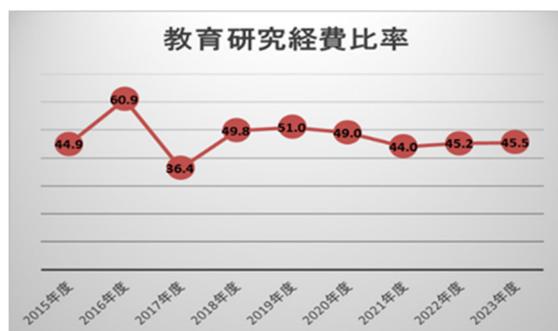
学生生徒等納付金比率及び補助金比率は、大学の重要な自己財源であるため、安定していることが望ましい。令和5（2023）年度は、令和4（2022）年度と比較するとほぼ同比率である。補助金比率は、0.7ポイント減少している。

### ② 人件費の推移



令和4（2022）年度と比較し、令和5（2023）年度の人件費比率および人件費依存率が1.1ポイント増加している。平成30（2018）年2月から実施している人件費削減策は、令和5（2023）年度においても継続実施しており効果は出ているものの、柏キャンパス及びいわきキャンパスの職員数が増加しているためである。

### ③ 主な経費の推移



令和4（2022）年度と比較し、令和5（2023）年度の教育研究経費比率は同率であるが管理経費比率は1.2ポイント増加している。これは学生募集に係る経費が増大したためである。

教育研究経費比率は、教育研究活動の維持向上を支え、経常費補助金の配分と密接な関係を持つ費用であるため、比率は高い方がよい。また、施設設備が老朽化してきているため設備更新や施設修繕を計画的に実施し施設設備の延命も視野に入れ、大学を長期に安定維持していくことが重要である。

下表は2014年からの大学の状況を各種比率で表したものである。なお、平成26（2014）年度から平成27（2015）年度までは、学校法人明星学苑の設置校時のいわき明星大学部門の数字を使用している。また、学部設置にかかる経費は、法人部門へ計上している。平成29（2017）年度は周年事業寄付金による経常収入の増加により、一時的に収入が増加している。

	比率	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1	人件費比率	69.8	78.6	54.6	76.3	61.7	59.2	53.1	59.3	60.4
2	人件費依存率	130.1	108.6	116.4	98.3	74.8	71.0	62.6	68.8	70.1
3	教育研究経費比率	44.9	60.9	36.4	49.8	51.0	49.0	44.0	45.2	45.5
4	管理経費比率	12.1	9.6	7.4	6.4	9.8	8.5	6.9	8.0	9.2
5	借入金等利息比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5
6	事業活動収支差額比率	▲ 309.7	▲ 50.4	1.4	▲ 33.0	▲ 21.2	▲ 16.3	▲ 3.7	▲ 11.0	▲ 14.2
7	事業活動収支比率	409.7	150.4	98.6	133.0	121.2	116.3	103.7	112.4	116.5
8	基本金組入後収支比率	409.7	150.4	98.1	108.5	121.2	110.3	102.4	110.9	110.9
9	学生生徒等納付金比率	53.6	72.3	46.9	77.6	82.6	83.3	84.8	86.1	86.2
10	寄付金比率	0.3	0.7	35.2	1.0	1.5	0.6	0.7	0.6	0.5
11	経常寄付金比率	0.2	0.5	35.1	0.8	1.4	0.4	0.4	0.6	0.5
12	補助金比率	20.0	23.0	15.6	17.4	10.6	13.1	11.9	9.8	9.1
13	経常補助金比率	20.1	23.0	35.1	17.5	10.9	13.0	11.7	9.8	9.1
14	基本金組入率	0.0	0.0	▲ 0.6	▲ 22.5	0.0	▲ 5.4	▲ 1.2	▲ 1.3	▲ 5.1
15	減価償却額比率	11.4	20.5	17.1	17.3	18.9	17.6	19.7	15.7	9.8
16	経常収支差額比率	▲ 26.8	▲ 49.0	1.6	▲ 32.5	▲ 22.6	▲ 16.7	▲ 4.0	▲ 12.8	▲ 15.7
17	教育活動収支差額比率	▲ 26.8	▲ 49.0	1.6	▲ 32.5	▲ 22.7	▲ 17.2	▲ 4.2	▲ 12.5	▲ 15.3

### (3) 学校法人の会計について（学校法人会計の特徴と企業会計との違い）

私立学校は、建学の精神に基づく教育と教育研究活動を将来にわたり継続的に実施していくこと、そしてその会計処理についても収益事業を目的とした一般事業会社のような企業会計の原則とは異なり、継続的な運営を可能とする収支の均衡がはかられているかどうかを把握することが求められている。

また、私立学校の教育条件の維持、向上そして経営の健全性を高め、在学する学生等の修学上の経済的負担の軽減をはかるため、経常的経費に対する補助を国から受けている（私立学校振興助成法第4条）。ここでは、その補助を受けるために定められた学校会計基準の特徴について6つに分けて説明する。

なお、主な収入は学生生徒納付金や経常費補助金であり、この額は年初にほぼ確定されているため、支出管理は企業以上に重要と位置付けられており、この支出を制御することを目的として、厳格な予算書作成（予算主義）が行われている。

#### 【企業会計との違い】

	学校法人会計	企業会計
目的	非営利目的	営利目的
活動	教育研究活動	利益獲得のための経済活動
会計基準	学校法人会計基準	企業会計原則
会計年度	4月～翌年度3月	さだめられていない
作成書類	資金収支計算書	キャッシュ・フロー計算書
	活動区分資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	損益計算書
	貸借対照表	貸借対照表

#### 【学校会計の特徴】

##### ①一般原則

4つの原則により会計処理を行い、計算書類を作成している。

・ 真実性の原則：

財政及び経営の状況について真実な内容を表示すること。

・ 複式簿記の原則：

すべての取引について複式簿記の原則によって正確な会計帳簿を作成すること。

・ 明瞭性の原則：

財政及び経営の状況を正確に判断することができるように必要な会計事実を明瞭に表示すること。

・ 継続性の原則：

採用する会計処理の原則及び手続きならびに計算書類の表示方法については毎会計年度に継続して適用し、みだりにこれを変更しないこと。

## ②勘定科目及び教育研究経費と管理経費の区分

各計算書における記載科目が学校法人会計基準に定められている。特に資金収支計算書における教育研究経費支出と管理経費支出の区分は経常費補助金算定の基礎となっており、また、その区分については、文部省通知により管理経費に限定列挙されている 7 つの項目以外は、その主たる用途に従い、それぞれ直接把握するか、その使用割合など合理的な配分基準により按分することで処理することとされている。

管理経費となるものは以下の 7 つである。

- ・ 役員の行う業務執行のために要する経費及び評議員会のために要する経費
- ・ 総務・人事・財務・経理その他これに準ずる法人業務に要する経費
- ・ 教職員の福利厚生のための経費
- ・ 教育研究活動以外に使用する施設、設備の修繕、維持、保全に要する経費（減価償却費含む）
- ・ 学生生徒等の募集のために要する経費
- ・ 補助活動事業のうち食堂、売店のために要する経費
- ・ 附属病院業務のうち教育研究業務以外の業務に要する経費

## ③部門別内訳表の作成

学校法人会計基準第 13 条において、学校法人、各学校、研究所、各病院、農場、演習林などの部門ごとに資金収支内訳表を作成することとなっている。また、学校法人会計基準第 24 条に基づき、同様の部門ごとに事業活動収支内訳表を作成している。なお、資金収支内訳表及び人件費内訳表の部門の記載にあたっては、2 以上の学部を置く大学にあつては学部、2 以上の学科を置く短期大学にあつては学科、2 以上の課程を置く高等学校にあつては課程にそれぞれ細分するものと定められている。

## ④総額表示と純額表示

計算書類に記載する金額は、総額表示であるから、収入と支出、貸借対照表科目の資産と負債・基本金・繰越収支差額を相殺していない。ただし、預り金に係る収入と支出（例えば源泉徴収された所得税・社会保険料等）、また、その経過的な収入と支出（例えば仮受金・仮払金等）及び食堂に係る収入と支出、教育活動に付随する活動に係る収入と支出（例えば売店や寮等）については純額をもって表示している。

## ⑤収益事業会計

私立学校の教育に支障のない限り、その収益を経営に充てるために私立学校法第 26 条において、収益を目的とする事業（18 の業種）を行うことが認められている。これらは、一般に公正妥当と認められる企業会計の原則に従って計算書類の作成を行っている。学校法人会計基準による受託事業収入・施設利用料収入・補助活動収入・雑収入などについても、法人税法上の収益事業（34 業種）に該当する場合は、それが教育活動に係るものであっても収益事業として課税対象となる。学校では教育研究活動の一環として実施しているもので、決して利益の獲得を目的にしていなくとも、税務上は収益事業として課税される場合もある。

## ⑥財務諸表

学校法人が作成しなければならない計算書類は以下のとおりである。

### ・安全性をみるもの

「資金収支計算書、資金収支内訳表、人件費支出内訳表、活動区分資金収支計算書」

学校法人は、毎会計年度に当該会計年度の諸活動に対応するすべての（収益事業会計以外）収入・支出の内容、支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするために作成している。

### ・採算性をみるもの

「事業活動収支計算書、事業活動収支内訳表」

学校法人は、毎会計年度の3つの活動（教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動）に対応する事業活動収入・事業活動支出の内容を明らかにし、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために作成している。なお、資金収支計算書にはみられない非資金取引科目がある。

### ・年度末の財産をみるもの

「貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表」

財政状態を明らかにするために作成されるもので、資産の部、負債の部及び純資産の部からなり、資産、負債及び純資産の科目ごとに当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して記載している。

## 【勘定科目の説明】

### ①資金収支計算書

No.	勘定科目名称	内容
1	学生生徒等納付金収入	学生からの授業料、実験実習料、入学金等
2	手数料収入	入学検定料、学内試験料、成績証明書等の発行手数料
3	寄付金収入	個人・企業等からの寄付金
4	補助金収入	国、地方公共団体、日本私立大学振興・共済事業団からの補助金
5	資産売却収入	学校の資産等の売却による収入
6	付随事業・収益事業収入	企業からの受託事業収入、収益事業
7	受取利息・配当金収入	預金等の利息
8	雑収入	施設設備利用料収入、廃品売却収入他
9	前受金収入	翌年度入学生の学生生徒等納付金収入
10	その他の収入	前年度の未収入金収入
11	資金収入調整勘定	資金収入を伴わないもの（当年度の未収入金、前年度の前受金）
12	前年度繰越支払資金	前年度末に繰り越した支払資金総額
13	人件費支出	教職員の給与、役員の報酬、退職金
14	教育研究経費支出	教育研究活動（奨学金含む）など
15	管理経費支出	理事会、学生募集、広報など教育研究以外のもの
16	施設関係支出	建物、構築物など固定資産に関する支出

17	設備関係支出	備品、図書など諸活動に使用するもの
18	資産運用支出	特定資産の積立など
19	その他の支出	前年度の未払い金、前払い金など
20	資金支出調整勘定	資金支出を伴わないもの（当年度の未払金、前年度の前払金）
21	翌年度繰越支払資金	次年度へ繰り越す支払資金の総額

### ②事業活動収支計算書

No.	勘定科目名称	内容
1	学生生徒等納付金	学生からの授業料、実験実習料、入学金等
2	手数料	入学検定料、学内試験料、成績証明書等の発行手数料
3	寄付金	資金収支計算書の寄付金収入に現物での寄付を加えた収入
4	経常費等補助金	国、地方公共団体、日本私立大学振興・共済事業団からの補助金
5	付随事業収入	企業からの受託事業収入
6	雑収入	施設設備利用料収入、廃品売却収入他
7	人件費	教職員の給与、役員の報酬、退職金（財団交付金と引当金の相殺）
8	教育研究経費	教育研究活動（奨学金含）、減価償却費など
9	管理経費	理事会、学生募集、広報、減価償却費など教育研究以外のもの
10	資産処分差額	資産処分時の除却損など
11	その他の特別支出	臨時の場合の支出（災害損失・過年度修正額など）

### ③貸借対照表

No.	勘定科目名称	内容
1	固定資産	有形固定資産（土地・建物）、特定資産（積立金）、固定資産
2	流動資産	現金・預金等の資産
3	固定負債	支払期限が長期のもの（長期未払金、退職給与引当金）
4	流動負債	支払期限が短期のもの（未払金、前受金、預り金）
5	第1号基本金	設立当初に取得した固定資産で教育の用に供されるものの価額、規模の拡大や教育の充実のために取得した固定資産の価額
6	第4号基本金	恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣が定める額
7	繰越収支差額	累積された当年度収支差額の収入または支出の超過額

医療創生大学 法人部門 中期計画実施工程表

重点課題Ⅰ：経営の安定

重点課題Ⅱ：管理運営の強化

戦略	取組項目	担当部署	実施目標	実施計画	実施責任者	取組内容/数値目標	重点事項	2023(令和5)年度	令和5年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画
								目標と実績		
戦略Ⅰ	財務状況	法人	中期財務工程表をもとに評価し、5年後までに収支均衡させる	・前年度の支出を分析し、当年度の支出の抑制を図る	・理事会	経常収支差額比率 (経常収支差額/経常収入)	◎	(目標) ▲9%	経常収支差額比率及び人件費比率は数値目標を超えており未達成である。 自己点検により経常収支に焦点を充てることは、今後の修学支援補助金要件を満たす為にも必要である。	修学支援補助金の要件達成の為、下記の項目について改善を図りたい。 「経常収支差額」:4年後にプラスにする。 「運用資産-外部負債」:運用資産は外部負債を超えないこととする。
						人件費比率 (人件費/経常収入)		(実績) ▲12.2%		
戦略Ⅱ	管理・運営	法人	主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤と、時代の変化に対応する大学づくりを進める。	ガバナンスコードの遵守状況を可視化し、運営の適切化を進める。	・理事会	ガバナンスコード チェックリスト点数	◎	(目標) 55点	ガバナンスコードの277項目のうち、チェック対象項目は263項目であり、そのうち達成できている項目(○)は249項目(94.7%)、一部未達成(△)の項目は10項目(3.8%)、未達成(×)の項目は4項目(1.5%)である。当初の数値目標の55点(%)に対して、94.7%の達成率である。	引き続き、未達成(一部未達成)の項目の改善に取り組むことは当然であるが、私学法の改正に伴い、ガバナンスコード自体の見直し、点検も行う必要がある。
						(実績) 94.7点(%)				

学校法人医療創生大学 柏キャンパス 中期計画実施工程表

重点課題Ⅰ：教育の質保証  
重点課題Ⅱ：満足度向上  
重点課題Ⅲ：社会的評価の向上

戦略	取組項目	担当部署	実施目標	実施計画	実施責任者	取組内容/数値目標	重点事項	2023(令和5)年度				令和5年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画	
								4月	7月	10月	1月			
戦略Ⅰ	(1) 教育課程と学修成果	学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験合格に向けた学力の担保</li> <li>教育の質を担保する体制(サイクル)の確立</li> <li>学生の国際交流に向けた交流拠点の開拓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間の各単位において、国家試験対策定期目標指数「成績基準・試験(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」などを検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指す。</li> <li>学生の学習到達度の検証や学生の学修成果の結果を受けて、教育支援のための研修会や情報交換会を継続的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部長</li> <li>教務学生課長</li> </ul>	学修行動調査(授業時間以外の学修時間)	◎	目標: 10時間以上/1週間					国家試験対策として、1・2年生は模擬試験を1回実施し受験率は100%であった。3年生は2回実施した。受験率(一回目は90%、二回目は89%であった。全国と比較して正答率の低い問題42問については学部教員による解説講義を急遽実施、学習が一人で出来ない学生のためにバーチャル自習室を設置し、業者のオンライン講習会を案内するなどの対策を講じた。一方で留年率は1.6%であり、心身両面の不調を抱える学生もみられた。今後の対策が必要である。	今後は、2023年度の取り組み結果を踏まえ、学習支援体制を許可していく。同時に低学力層に対してはチューター制度の強化を図るとともに、留年や離籍にかかわる学生に対しては、保護者との連携を密にしながら支援体制を強化・構築していく。少し時間がかかっても看護職を目指したいと希望する学生もみられるため、保護者とも連携し休学中に学習継続の気持ちが続くことのないような支援が必要である。
						就職率	◎	目標: 設置審中						
						国際交流拠点の開拓	◎	目標: 2ヶ所						
						留年率	◎	目標: 4%未満						
						国家試験合格率	◎	目標: 設置審中						
戦略Ⅰ	(3) 研究活動	学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研究費の獲得</li> <li>競争的資金の採択</li> <li>国際関連の大型資金の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請説明会等を実施する。</li> <li>組織的に申請書チェックを行う。</li> <li>研究業績を年度更新しガールンへ保管する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部長</li> </ul>	外部資金獲得件数	◎	目標: 3件以上				外部資金獲得は、科学研究費が11件(代表)が採択されており新規採択3件、継続中のものは5件であった。助成金等の採択は2件(学術学費1件、企業助成1件)であった。研究業績書の提出は100%であった。2023年における科学研究費の新規採択率は38%であった。	外部資金未申請の教員が複数人いるので全員の応募を促す。教員評価に対して、研究の重みづけを現状の15%よりも重くし、大型資金獲得者にはインセンティブを与えるような仕組みづくりが必要である。	
						研究業績管理	◎	目標: 100%						
						科研費採択率(採択数/申請数)	◎	目標: 30%						
戦略Ⅰ	(4) 設備等整備計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務学生課</li> <li>総務課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT技術を活用した授業を実施するための環境を提供する。</li> <li>施設修繕計画に則り教育に支障のない適切な整備を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線LAN等のネットワーク</li> <li>学外接続ネットワーク環境の充実</li> <li>施設・設備の維持管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務学生課長</li> <li>総務課長</li> </ul>	ネットワーク・無線LANの整備状況に関する満足度調査	◎	目標: 70%				ネットワーク環境の充実が学習にとって必須である。今年度の後半からいわきキャンパスのサーバーに一元化し、2023年から実施した。一元化による障害は特に生じていない。	無線LAN稼働に大きな問題は生じていない。今後はセキュリティ対策にも力を入れながら、安全に学習できるようなネットワーク環境の更なる構築を目指していく。	
						ICTシステム設備稼働率	◎	目標: 100%						
戦略Ⅱ	(5) 学生支援計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部</li> <li>研究科</li> <li>教務学生課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度70%を達成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職協働、学部横断による学生満足度調査の実施</li> <li>検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表</li> <li>学生の心理面への調査検討、および実施</li> <li>各調査結果に基づく支援の検討、環境改善・教育指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部長</li> <li>教務学生課長</li> </ul>	学生満足度調査	◎	目標: 100%				離籍率は5.7%であり、離籍者は14名(1年生7名、2年生6名、3年生1名)であった。理由は、進路変更、体調不良や留年による修学意欲低下であった。低学年の段階で進路変更を決定するケースが多かった。チューター面談を必要時に適宜実施した。学生が自身の学修達成状況を点検しつつ歩めるように、困りごとやつまずきの内容を把握しつつ支援を行っている。	学生の満足度は、平均70%を超えているが、施設設備については一部低い結果となっているため、今後の改善に向けた検討が必要であるとともに、学生への回答も必要となる。保護者会を開催し、学生生活支援に関する教員と保護者との連携を深める必要がある。	
						学生ポータルサイトの構築と活用	◎	目標: 100%						
						離籍率	◎	目標: 2%未満						
戦略Ⅲ	(6) 学生支援計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部</li> <li>教務学生課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学定員充足率を100%にする。補位的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、18歳人口が減少していくことから、県外からの入学者数を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報用媒体の充実(ウェブ版のオープンキャンパス等)</li> <li>対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部長</li> <li>教務学生課長</li> </ul>	入学定員充足率	◎	目標: 100%				オープンキャンパスを年度内に9回実施し、高校訪問なども積極的に実施し、受験者数は確保できた。今後も本学部の魅力をより一層の広報活動を実施していく計画である。ホームページやSNSを効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を進める必要がある。2月の入試を終えた時点で合格者は93名であった。入学時点で69名(充足率:86%)となり辞退者が多くみられた。今後、より多くの受験生が受験機会を得られるように入試日程などを検討していく。とくに社会人の確保が課題である。	積極的な入試広報活動によって本学部の魅力を伝えることができるよう、魅力的なオープンキャンパスを企画するようにしていきたい。ホームページからの広報活動に力を入れて、県外からの受験生を呼び込むことを検討していく必要がある。今後は既存のホームページの情報と修正データの入れ替え作業がスムーズに出来るようにしていくことが求められると同時に、いわきキャンパスとのより一層の連携が求められる。	
						志願倍率	◎	目標: 2倍						
						合格率	◎	目標: 2倍						
						歩留率	◎	目標: 40%以上						
						県外入学者数	◎	目標: 40%以上						
戦略Ⅲ	(7) 社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部</li> <li>看護キャリア教育研究センター</li> <li>総務課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療施設(看護職)・地域(看護)活動に資する教育訓練の実施・支援を通じて、医療創生大学(国際看護学部)の社会的プレゼンス向上を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報・外部連携体制の整備(HP、相談窓口など)</li> <li>医療機関(看護職)の教育・研究にかかる情報利用支援</li> <li>大学・地域行政機関・医療施設における研修会の企画および実施</li> <li>外部医療機関での看護職員教育の支援(特定行為研修、新任職員研修など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部長</li> <li>看護キャリア教育研究センター長</li> <li>総務課</li> </ul>	情報利用支援にかかる講習会実施	◎	目標: 1件				キャリア教育研究センターのホームページを通じて外部機関への看護職員研修に向けた広報活動を実施した。また国際看護学部の臨床実習場所の施設等を中心にセンター事業を広報し外部医療機関に働きかけを行った。また千葉県「看護職員卒業後フォローアップ研修事業」に参画し研修を実施した。参加者は20名で「食への思いを支える摂食嚥下の看護ケア」をテーマとし、柏たなか病院とA01国際病院との連携の下に5日間の研修を実施した。日本の看護教育制度について講演をし資料等をウズベキスタンに提供、本学と同国の関連機関との連携について企画した。	今後も、自治体および外部医療機関のニーズを踏まえ、また機会を捉えて、本センター(および国際看護学部)の貢献できる活動を推進して行きたいと考えられる。今後の計画として令和6年度に向けて、柏市地域子育て支援拠点「はぐはぐひろば柏たなか」と、子育て支援事業の共同参画に関する企画を予定している。今後さらに再教育のための研修会を実施し実行していく。情報の利用支援に関する講習会の実施はこれからの情報化社会への対応として必須である。具体的な研修プログラムの開発を急ぎたい。	
						研修会・講演会の実施に向けた行政・医療機関との検討あるいは実施	◎	目標: 3件						
						外部医療機関における職員研修の支援実施	◎	目標: 4件						
戦略Ⅲ	(8) 財務状況	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期財務工程表をもとに評価し、5年後までに収支均衡させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の支出を分析し、当年度の支出の抑制を図る。</li> <li>補助金の増収を目指し、要件の検証を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会</li> </ul>	教育活動収支差額比率(教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計)	◎	目標: 99%				国際看護学部が開設して3年目で完成年度までは収入・支出ともに大きく増加して行くこととなるが、今年度は改組した専門学校が昨年度閉校となり専門学校から通信費、委託費や借入等の固定的な支出を引き継ぐこととなる。そのため、完成年度に満たない今年度は前年同様、引き続き、特に支出の抑制を図る必要がある。	完成年度となり、補助金対象の学校会計原則に基づき、学生生徒納付金および経費補助金の収入管理の確定、厳格な予算書作成し、支出を制御することを目的とした学校法人会計処理を明確に表示していく。前年度同様に継続して、節電・消耗品の管理徹底・広報戦略効率を図り支出の管理を徹底していく。	
							◎	目標: 83%						

医療創生大学いわきキャンパス 中期計画実施工程表

- 重点課題Ⅰ：教育の質保証  
 重点課題Ⅱ：満足度向上  
 重点課題Ⅲ：社会的評価の向上

戦略	取組項目	対応部局	実施目標	実施計画	実施責任者	取組内容/数値目標	重点事項	報告月 実施報告担当部局	2023(令和5)年度		令和5年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画
									目標と実績	実績		
戦略Ⅰ	(1) 教育課程と学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部</li> <li>研究科</li> <li>教務学生課</li> <li>教務委員会</li> <li>FD・SD委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の理念・目的を実現するため、学修成果の可視化を通じてポリシーの評価検証を行う。</li> <li>質保証サイクルを実質化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指していくこととする。</li> <li>達成度評価のに基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める。</li> </ul>	教務担当副学長	学修行動調査 (授業時間以外の学修時間)		11月 教務委員会	(目標) 11時間以上 (実績) 15.28%	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること、及び学生が学修成果を可視化できるようなシステムを検討し導入した。</li> <li>FD・SDは「学修成果の把握と可視化〜ルーブリック作成と活用方法」に関する内容を実施し、教職員に成績評価の目的・意義、ルーブリック評価表の作成・活用に関する知識の醸成を図った。</li> </ul>	令和5年度に導入したシステム(シングル)を活用し学生が学修成果を可視化できるようにするため、大学が設定している観点別(知識・技能、思考力・判断力、関心・意欲・態度等)に学修成果が可視化できるように設定する準備を行い、令和6年度後期にはテスト運用ができるように実施していく計画である。	
						就職率	◎	翌年度4月 学部・教務学生課	(目標) 100% (実績) 99.6%			
						FDS参加率	◎	翌年度4月 FD・SD委員会	(目標) 100% (実績) 100%			
						留年率	◎	翌年度4月 学部・教務学生課	(目標) 5.4% (実績) 6.8%			
						国家試験合格率	◎	翌年度4月 学部・教務学生課	(目標) 100% (実績) 新卒業薬剤師: 87.1% 看護師: 85.5% 保健師: 95.0% 作業療法士:			
戦略Ⅰ	(3) 研究活動	学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研究費の獲得</li> <li>競争的資金の採択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請説明会等を実施する。</li> <li>組織的に申請書チェックを行う。</li> <li>研究業績を年度更新しガルーンへ保管する。</li> </ul>	学部長	外部資金獲得件数		翌年度4月 総務課	(目標) 5件 (実績) 5件	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究業績管理の作成について、1月10日にいわきキャンパスの教職員へ通知し66%の教員が業績管理フォルダに業績を格納した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各個人の主な研究業績は、常に大学のホームページで公開し管理されており、研究業績管理として別用のファイルを作成することは教員の負担であったため、負担軽減を目的として、学部長、研究科長の意見を聴取した上で、令和7年度以降は別業での研究業績管理を実施しないこととした。</li> </ul>	
						研究業績管理		7月 教務学生課	(目標) 100% (実績) 66%			
						科研費採択率 (採択数/申請数)	◎	翌年度4月 総務課	(目標) 20% (実績) 10.8%			
戦略Ⅰ	(4) 施設等整備計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部</li> <li>教務学生課</li> <li>総務課</li> <li>Dx推進委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔講義やICT技術を活用した授業を実施するための環境を提供する。</li> <li>施設修繕計画を則り、教育に支障のない適切な整備を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線LAN、建屋間ネットワークおよび学外接続ネットワークの改善を行う</li> <li>施設・設備の更新及び修繕を行う</li> </ul>	Dx推進委員長	ネットワーク・無線LANの利用状況に関する満足度調査	◎	11月 Dx推進委員会	(目標) 85% (実績) 40.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線LANについては、学内ネットワーク全体での無線LAN利用満足度は満足が前年の35.4%から40.7%満足へ増加しており、前年度1月に行った増強工事の結果が反映されたものになっている。</li> <li>ICTシステム利用率については、現行機器で発生する障害のについて、回避策を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線LANについては、年度末に追加で実施した無線LANの満足度調査、および追加整備を実施する。</li> <li>教室整備については、障害の回避策を実施後、アンケートを行う。</li> </ul>	
						ICTシステム設備利用率		11月 Dx推進委員会	(目標) 30% (実績) ー			
戦略Ⅱ	(5) 学生支援計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部</li> <li>研究科</li> <li>教務学生課</li> <li>学生生活委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度を70%を達成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職協働、学部横断による学生満足度調査内容の見直し</li> <li>検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表</li> <li>学生の心理面への調査検討、および実施</li> <li>各調査結果に基づく支援の検討、環境改善</li> <li>教育指導</li> <li>大学と保護者の情報共有を促進し、学生支援の連携を図るため調査を実施</li> </ul>	学生担当副学長	学生満足度調査	◎	11月 学生生活委員会	(目標) 55% (実績) 68.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度いわきキャンパスの学生満足度は回答率が68.1%で昨年度67.3%よりも増加した。</li> <li>学生パーソナル調査は、学生生活委員会が慎重に審議した結果、個人情報保護の観点から実施を見送ることとした。</li> <li>離籍率は3.1%と目標へは届かなかったものの、昨年度の3.6%と比べ改善が見受けられた。</li> <li>保護者の満足度調査は回答率が4% (34/824) と低かったものの、79.4% (27/34) の保護者から満足、やや満足と回答を得られた。</li> <li>父母会総会のアンケートに対して、大学の回答を画面で明示したこと従来より父母会役員から意見が得られやすくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生満足度は75.1%と目標を達成することができたが、回答結果を踏まえ引き続き満足度が向上する施策を実施する。</li> <li>保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討する計画である。</li> <li>引き続き父母会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することで継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。</li> </ul>	
						学生パーソナル調査(仮称)		7月 学生生活委員会	(目標) 実施率30% (実績) ー			
						離籍率	◎	翌年度4月 学部・教務学生課	(目標) 3.0% (実績) 3.1%			
						保護者満足度調査		11月 教務学生課	(目標) 60% (実績) 79.4%			
戦略Ⅲ	(6) 学生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部</li> <li>研究科</li> <li>企画課</li> <li>入試広報委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学定員充足率を100%にする。補佐的に志願倍率、合格率、歩留率を設定する。今後、福島県の18歳人口が減少していることから、福島県内の入学者数を確保した上で、県外からの入学者数を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔広報(動画、DM、HP、SNS、WEB版オープンキャンパス)</li> <li>対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学生向けガイダンス)</li> </ul>	学部長	入学定員充足率	◎	翌年度4月 学部・企画課	(目標) 100% (実績) 52.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面広報、遠隔広報ともに回数、接触人数を増加したものの、数値目標には達しなかった。早急な改善が急務である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>厳しさを増す外的要因、認知度・志望度の低さなどの内的要因を分析し、早急な改善を図るため、新体制による検討、対応を行う。</li> </ul>	
						志願倍率		翌年度4月 企画課	(目標) 2.52倍 (実績) 1.11倍			
						合格率		翌年度4月 企画課	(目標) 81.1% (実績) 95.2%			
						歩留率		翌年度4月 企画課	(目標) 50.5% (実績) 49.7%			
						県外者入学数		翌年度4月 企画課	(目標) 117人 (実績) 60人			
戦略Ⅲ	(7) 社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部</li> <li>研究科</li> <li>企画課</li> <li>教務学生課</li> <li>健康科学RC運営委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域への知識の提供を目的とし、公開講座や生涯学習を開催することで認知度を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開講座を毎年開催する</li> <li>各学部の生涯学習活動を実施する</li> <li>対外活動の管理を行う</li> </ul>	健康科学RCセンター長	公開講座参加者満足度	◎	1月 健康科学RC運営委員会	(目標) 80% (実績) 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>【薬学部薬学科】市民講座: 3件、出前講座: 11件</li> <li>【看護学部看護学科】市民講座: 0件、出前講座: 13件</li> <li>【健康医療科学部作業療法学科】市民講座: 4件、出前講座: 4件</li> <li>【健康医療科学部理学療法学科】市民講座: 10件、出前講座: 2件</li> <li>【心理学部臨床心理学科】公開講座(担当学科): 1件、市民講座: 6件、出前講座: 18件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開講座は、薬学部薬学科が担当学科となり実施予定。各学部において生涯学習活動の一環として、講演会や研修会を実施を計画している。</li> <li>2024年度も引き続き、積極的な対外活動を実施し、地域への知識の提供を通じ、大学の認知度向上に努めていく。</li> </ul>	
						生涯学習公開講座実施数 (公開講座・市民講座・出前講座等)		翌年度4月 健康科学RC運営委員会	(目標) 17件 (実績) 72件			
戦略Ⅲ	(8) 財務状況	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期財務工程表をもとに評価し、5年後までに収支均衡させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支出を分析し、抑制を図る</li> <li>資金繰り表を作成し支出を管理する</li> </ul>	理事会	教育活動収支差額比率 (教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計)	◎	翌年度7月 総務課	(目標) ▲10% (実績) ▲15.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門学校4校を含む2023年度学校法人資金収支内訳表(学校別)を作成。資金収支内訳表は、毎月の実績額(見込額を含む)を記入し、前年度の支出と大きく増額になる費用を分析しながら支出の抑制を図った。毎月、理事長へも報告すると共に関係者にも報告してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期財務工程表をもとに収入・支出のバランスのとれた予算書を作成し、今年度の支出を分析し、次年度の支出の抑制を図る。また、貸借対照表の「運用資産-外部負債」がプラスになるように運用管理する。</li> </ul>	